2022年度在宅医療(栄養)推進事業 新潟県補助事業

新潟県における 在宅医療(栄養)推進事業

一在宅療養者等のステージにあったQOLの向上を目指して一

2022年度 事業報告書

2023年3月

公益社団法人 新潟県栄養士会

はじめに

2022年度につきましても新潟県補助事業「在宅医療(栄養)推進事業」の採択をいただき、多方面からのご支援の下、本事業を実施することができました。

今年度の事業については、モデル訪問の方向性の舵をきり、支部単位で実施していました在宅モデル訪問の目的をより明確にしました。具体的には何が問題でモデル訪問を実施するのか、県央地区歯科医師会との連携訪問、従来から求められている訪問看護・介護支援専門員からの訪問の必要性の高いものとそれぞれ明確な目的を持ち実施することができたと感じています。

モデル訪問事業の課題はさまざまあろうかと思いますが、在宅訪問を必要とする方は多く、その中で優先度 の高い対象者様に訪問できたことは有意義であったと思います。一方魚沼支部に新しく認定栄養ケア・ステーションが誕生したことは、喜ばしいことと思います。地域に密着して各事業に介入し、クリニックと連携を図りながら保険利用の訪問ができ始めたことも含め、県栄養士会栄養ケア・ステーションとより一層連携を密に 図りながら、運営に協力していきたいと思います。

また人材育成研修会では、本年度歯科医師会とモデル訪問を実施したため、引き続き食事観察・学会分類に ついて重点的に行い、訪問に活かすことができました。

そして訪問後の報告書の作成について、再度実践的な内容を学びました。丁寧に作成すればするほど内容は 充実しますが、読み手側の負担になります。依頼者に必ず伝えなければならない事項をまとめる研修会を行い、 より在宅の現場に生かすことができる学びになりました。

今後の課題はオンデマンド配信が可能であることを生かし、仕事をしている管理栄養士からの視聴を促し、 訪問管理栄養士への理解を共有していきたいと思います。

在宅栄養ケア総合研修会は、多職種の方々を対象とした研修会ですが、今年度は実際に活躍している石川県 栄養士会栄養ケア・ステーションサテライトの管理栄養士による活動紹介でした。金沢市医師会の中にサテラ イトの場があり、市民の身近で活動していることを学び、本県栄養ケア・ステーションと何が違うのかの検討 も行いました。方向性・実践してきたことに大きな違いはないものの市民・対象者への周知が足りないことは 否めませんでした。真摯に受け止め、今後に活かしていきたいと思います。

来年度からは県栄養ケア・ステーションと各支部の関係をより円滑に行い、地域包括ケアへの貢献も目標に据えて、より広い視野に立って進めていきたいと考えています。

末筆になりましたが、本事業評価委員の先生方、県健康づくり支援課様には何年にも渡り適切なご助言やご 提案をいただきまして心よりお礼申し上げます。

2023年3月

公益社団法人 新潟県栄養士会 会長 折居千惠子

Contents

は	∵めに	01
5	91 事業概要	03
1.	 事業目的・内容 ····································	04
2.	事業概要 タイムスケジュール 実施状況一覧	06
	· 支部事業推進状況一覧······	08
	・栄養ケア・ステーション 登録	09
	・にこにこ通信······	11
	・認定栄養ケア・ステーション	12
Ι.	拠点整備事業	
	①在宅栄養ケア総合研修会	13
	在宅栄養ケア総合研修会アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
	②在宅栄養ケア人材育成研修会	16
	人材育成研修会アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
	③他職種連携講座・地域栄養ケア活動	30
	④訪問栄養食事指導症例検討会	31
	⑤栄養ケア業務推進事業	32
	⑥支部事業検討会及び研修会	32
Π.	在宅療養者の栄養ケア推進事業	
	①支部長及び在宅事業担当者代表者会議	34
	②支部・地域包括ケアシステム関連団体への協力要請	35
	③支部·推進事業·····	36
	④モデル在宅訪問栄養食事指導	38
	⑤栄養ケア推進会議	41
	⑥評価委員会·····	42
3.	まとめ	53
	おわりに ·····	
_		
3	92 資料編 ├─────────────────────	55

2022 年度 在宅医療(栄養)推進事業 新潟県補助事業

第1 事業概要

2022年度 在宅医療(栄養)推進事業概要

1. 事業目的・内容

【 I. 拠点整備事業】

目的

- ・新潟県全域における在宅医療(栄養)推進事業の拠点整備を進める。
- ・在宅栄養ケアに関連する研修会を開催し、事業に関わる人材育成及び地域内の同職種連携を進める。

事業内容

①在宅栄養ケア総合研修会

実践経験豊富な管理栄養士を講師としてオンライン利用の研修会を開催した。栄養士会会員ほか、在宅医療 関連の他職種の参加の呼びかけを行った。

②在宅栄養ケア人材育成研修会

在宅栄養ケアに携わる人材育成を目的として研修会を開催し、指導技術のスキルアップを図った。

③他職種連携講座・地域栄養ケア活動

在宅療養者との関わりのある他職種を対象とした、栄養講座及び情報交換会を開催し連携を深めた。

④訪問栄養食事指導症例検討会

実際に担当した症例について、効果的な指導技術の向上と的確な報告書作成に係るスキルアップを図った。 他職種にもわかりやすい指導記録書式及び実施記録書の検討を行い、栄養ケアによる効果の見える化を図り 情報共有を行った。

⑤栄養ケア業務推進事業

県栄養士会 福祉事業部と連携し、県内福祉施設における栄養ケア業務の取り組み状況の把握及び効果的な 栄養ケア実施について会員間の情報共有を図った。

⑥支部事業検討会及び研修会

各支部事業として、嚥下調整食一覧及び、管内構築された栄養指導契約書の学習会を開催した。

【Ⅱ. 在宅療養者の栄養ケア推進事業】

目的

在宅療養者の疾病の重症化予防やQOLの維持及び向上を図る為に、療養者個々に寄り添った適切な栄養ケアを提供することにより、多職種で達成を描く地域包括ケアシステムの一翼を担うことを目指す。

事業内容

①支部長及び担当者代表会議

本事業の概要説明及び事業推進に向けた具体的課題について意見交換等事業の共有化を図る取り組みについて会議を開催した。

②地域包括ケアシステム関連団体への協力要請

県栄養士会本部、支部において,管轄の郡市医師会等関連団体に事業協力要請の訪問を行った。

③支部推進事業

各支部において推進会議を開催した。

④モデル在宅訪問栄養指導

在宅療養者の低栄養の改善・予防に重点を置いた訪問栄養指導の実施を、新潟県歯科医師会、新潟リハビリテーション病院、訪問看護ステーションや介護支援専門員との3つのモデル連携を通し取り組みを行った。

⑤栄養ケア推進委員会の開催

在宅栄養ケアの取り組みについて本部及び各支部において連携や体制作り及び活動内容の検討を行った。

⑥評価委員会の開催

在宅ケアに係る多職種の代表者及び有識者により、客観的な見地から本事業の評価・検証を行い、今後の事業展開に必要な助言等を頂いた。

2. 事業概要 タイムスケジュール 実施状況一覧

事前	準備)		担当責任者
1)	挨拶訪問・協力依頼		· 栄養士会会長
2)	人材育成研修会・ケア会議開催計画案作成		・栄養士会支部長 ・栄養CS
I) ‡	如点整備事業		
	事業コーディネーター	3名	
	本部・上越支部・その他支部		
1	在宅栄養ケア総合研修会 (Web)	1回	
2	在宅栄養ケア人材育成研修会(Web)	5回シリーズ	
3	他職種連携講座・地域栄養ケア活動	15回	· 栄養士会 · 支部長
4	訪問栄養食事指導症例検討会 (zoom)	2回	・栄養CS ・地域栄養ケア関連会員
(5)	栄養ケア業務推進(福祉事業部の地域連携)	20回	
6	支部事業検討会・支部研修会	延べ45回	
Ⅱ) ī	生宅療養者の栄養ケア推進事業	計画	
1	支部長及び在宅事業担当者代表会議 1回目説明会・2回目報告会	2回	
2	支部・地域包括ケアシステム関連団体への協力要請 管轄郡市医師会 ・在宅医療推進センター 等	10支部×1~3回 (21回)	
3	支部・事業推進会議 支部地域活動 (在宅事業に係る役員・在宅担当者会議)	10支部×2回 (20回)	
4	モデル訪問栄養食事指導 (期間8月~1月 訪問回数3~4回) A:県歯科医師会連携 (県央地区 4~8件 他地区10件) B:新潟リハビリテーション病院連携 (新潟市・新発田市 5件) C:訪問看護・介護専門員 からの依頼指導 (新潟市・三条市 5件) (通所改善サービス事業も含む)	訪問指導延べ数 100回	・栄養士会 ・支部長 ・栄養 CS ・地域栄養ケア登録会員
(5)	栄養ケア推進委員会 Aケアステーション担当者会議(2回) Bケアステーション体制検討会(10回) Cワーキング会議(15回)	27回	
6	評価委員会	2回	
作成	資料		
· 在	宅療養者のQOLの向上を目標に掲げ、持続可能な活動基盤整備 宅医療推進センターを中心に地域密着型の連携強化活動事業 療事業部・福祉事業部との連携した在宅訪問栄養指導事業の展開 ニームページの活用		・新潟県栄養士会

第1 事業概要

(2023年2月11日現在)

					事	業 実 施	状 況 一	覧	表			
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月		12月	令和5年1月	2月	3月
	. 202	21年度報告書	記布(4月)									
	事	業開始										(2023年2月11日現 在)
		本部・上越支部	鄒 (4回/月	窓口開設活動)	・魚沼支部(詞	忍定栄養CSに	よる活動)他					上越支部・魚沼支部 ・新潟市支部
		「金沢栄養ケア	ステーション	訪問栄養指	導等活動につい	ヽて」12/1~	12/7 (Web酮	2信)				計1回
		参加申し込み者 11/2	112人(Web面	7信)1回目6/3	0~7/6 ·2回	目8/4~8/10) · 3回目9/1	~9/7	· 4回目	9/29~10/5 • 8	5回目10/27~	計5回+福祉事業部1回
		地域栄養ケア	舌動·認知症力	フェ栄養講座・	ケアマネ対象	訪問栄養指導	の説明会・ケア	マネタ	対象多職種	重連携事業等		計14回
		訪問指導症例検31人	討会(契約指導	・モデル指導)	県栄CS開催	zoom 開催	日1回目11月12	2日・2	回目12月	10日 参加者1回日	目21人·2回目	計2回
		県内福祉施設	(特養・老健の	栄養ケアに係る	る取り組み状況	調査まとめ及っ	び情報共有、事	業対応	芯検討)			計4回
		地域摂食嚥下対	応食一覧の活用に	こついて・医師会	との構築済み栄	養士指導契約書	の共有について	•	柏崎支部食	2形態一覧表作成完	成	計20回
		1回目7/23	(集会型) · 三	条支部 8/19	· 8/26		2	回目3月	月予定(z	oom)		計1回
												計10回
												計40回
												A:県歯科医師会連携 6件(延べ指導数18回) B:新潟リハ病院連携 1件(延べ指導数2回) C:訪看・ケアマネ連携 11件(延べ指導数25回) 通所栄養改善 延べ指導回数39回
												計24回
			1回目7/2	28 (zoom)						2回目1月2	26日 (zoom)	計2回
1	7	・本事業幸	设告書									
		1) 在宅	栄養ケア 人材	才育成研修会	参加募集案内	(新潟県栄養	養士会会員向	け会訓	志同時封	入(2021年4	月)・ホーム	ページ掲載)
		2) 広報	活動・多職種	連携会議参加	〕及び受託事	業の取り組み	4					
		• 新	「潟県主催・「	介護予防のた	めの地域ケブ	ア個別会議の	助言者育成研	肝修会	」へ参加	П		
		· 在	宅ケアを考え	える集いin越	後企画・運営	委員として	参加					
		· 新	「潟県後期高歯	命者医療広域道	重合会・在宅	訪問フレイル	レ対策事業受	託				
		. =	条市高齢保管	宫一体化事業/	への協力							

2022年度 在宅(栄養)推進事業

支部事業推進状況一覧

2023年2月10日現在

2022年度 支部事業

	No 事業名			実績											
区分			計画	計	村上	新発田	三条	長岡	柏崎	魚沼	十日町	上越	佐渡	新潟市 本部	備考
4		本部·支部拠点活動		64						9		48		7	
1 拠点整備 研修事業	3	地域ケア連携活動	15回	14	1				3				1	9	
おいシチ木	6	支部事業集会·研修会	45回	20	1	2		1	4	1	1	1	1	8	
	2	ケア団体協力要請	各支部1~3回	10		3		1	2	2	1			1	
Ⅱ推進事業	3	支部事業推進会議	各支部2回(20回)	40	2	2	4	3	2	2	3	5	2	15	
	3	モデル訪問指導(訪問)	100回	53		4	17	8						24	

契約による栄養指導

	契約による指導区分	実績											
	天利による指导区グ	計	村上	新発田	三条	長岡	柏崎	魚沼	十日町	上越	佐渡	新潟市	備考
雇用契約書·連	携手順作成地区(2023年1月現在)			0		0	0	0	0	0		0	
	在宅訪問指導指導料金			4,500		4,000	4,500	4,500	4,500	4,500		4,500	
 労務契約	交通費			(込み)		1,000	(込み)	(込み)	(込み)	(込み)		(込み)	
内容	外来指導指導料金			6,500 半日		5,500 /半日	6,500 半日		6,500 /半日				
	交通費			(込み)		1,000	(込み)		(込み)				
地域医療連携システム連携									米ネッ ト	がんぎ ネット			
2022年度栄養	2022年度栄養ケアステーション活動登録会員数		3	10	13	3	4	6	3	12	4	53	
内 診療報酬介	ト護報酬に係る栄養指導業務希望者	39	2	2	5	1	4	4	2	3	1	15	

訪問指導 雇用契約を交わした(保険利用)医療機関及び訪問患者数 (2023年1月末現在)

		上越	支部			十日町	支部		魚沼支部				
年度	新規契約 医療機関	延べ 契約数 (件)	患者実数(人)	延べ 指導回数 (回)	新規契約 医療機関数 (件)	延べ 契約数 (件)	患者実数(人)	延べ 指導回数 (回)	新規契約 医療機関数 (件)	延べ 契約数 (件)	患者実数(人)	延べ 指導回数 (回)	
2016	4	4	7	18	1	1	7	22					
2017	1	5	4	8	0	1	6	43					
2018	2	7	4	12	2	3	19	91	0	0	0	0	
2019	5	12	6	26	0	3	15	70	0	0	0	0	
2020	3	15	4	16	0	3	0	0	0	0	0	0	
2021	0	15	2	6	0	3	4	20	0	0	0	0	
2022.4~12 現在	0	15	3	8	0	3	8	36	1	1	1	2	

通所栄養改善サービス事業 (2023年1月末現在)

2020年3月~ 事業所 1か所と契約 ・サービス対象者:要支援 1名・要介護 1名

栄養ケア・ステーション 登録

~新潟県栄養士会栄養ケア・ステーションへの活動登録について~

「新潟県栄養士会栄養ケア・ステーション」は、新潟県栄養士会が公益目的事業として設置・運営する 栄養ケア・ステーションで、広く県民に「ここにあなたの管理栄養士・栄養士がいる」ことを伝える栄養 ケアの開かれた窓口であり、事業実施の場でもあります。

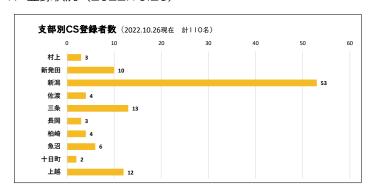
これまで当ケア・ステーションでは国・県の大型事業のほか、市町村や県後期高齢者医療広域連合の事業、福祉施設、公民館、事業所等、様々な分野からの事業委託や人材紹介の依頼を受けています。

地域住民の食事・栄養を支援するには、あらゆる場の管理栄養士・栄養士が関わることが求められます。 そのためには即戦力として多様な業務に対応できる登録管理栄養士・栄養士を増やしていくことが必要です。職域・勤務状況から現在は活動できないという会員であっても、専門を生かしたプロボノ活動として、または将来に備えて、ぜひ多くの会員の皆様の登録をお願い致します。研修情報や改正情報、業務依頼情報などを適切に発信していく予定です。

- 1. 登録: 一年毎更新 県栄養HPで随時受付
 - :県栄養ケア・ステーション登録者に業務依頼の情報配
 - 信・担当栄養士の募集
- 2. 業務運営: 県栄養ケア・ステーションへ依頼の各種業務依頼 の受付と業務担当栄養士の調整
- 3. 業務内容(区分)
 - 1) 県民の栄養及び食に関する支援
 - ○栄養教室講師、イベント企画 講演会講師 等
 - ○健診後の栄養・食事指導(特定保健指導)
 - ○スポーツ栄養に関する指導・相談・講演
 - 2) 在宅医療・介護
 - ○開業医との契約による栄養指導業務(外来栄養指導1・在宅訪問栄養指導1・居宅療養管理指導1)
 - ○県栄養士会栄養ケア・ステーション登録書による栄養指導業務
 - ·在宅訪問栄養指導2 ·居宅療養管理指導Ⅱ
 - ・通所系サービス「栄養アセスメント加算」「栄養改善加算]
 - · 認知症対応型共同生活介護「栄養管理体制加算」等
 - ○地域包括ケアシステムに係る事業関連業務
 - 3)地域ケア会議等
 - 4) その他
 - ○食品・栄養成分表示に関する業務
 - ○健康・栄養に関するレシピや献立の考案業務



4. 登録状況 (2022.10.26)



5. 希望 業務

		1	県民の栄	養及び食	に関する	支援		2 在宅医療·介護								3 その他			
支部	登録者 数	特定保健指導	スポー ツ栄養	料室養室べの画営	.講演 会講師	その他	A.報介酬か養指乙関る診酬護にる食導れ連業療・報か栄事とにす務	B.以病診な医関政携栄事記の・所の機行連た食導	C.栄事(市レ在問食 訪養指新内イ宅栄事導 問食導潟フル訪養指)	D.包アテか事連(ケ議な地括シムか業業地ア参どがないのである。 しかい しゅうしゅう ひんしゅう ひんしゅう ひんしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しょうしゅう しょうしゅう しょうしょう しんりん しんりん しんりん しんりん しんしん しんしん しんしん しんし	E.施通ルホ等のに栄一事祉設所、一一)契よ養ビ業	F.介連理室養等画 医護の教栄室企運	G.医介連 療関講師 会講師	その他	A.・ ・ 成示すす 素 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	B.・関の、的にく等提健栄連情専所基献の供	その他		
村上	3	1	0	1	0	0	2	2	1	2	1	2	1	0	0	0	0		
新発田	10	3	1	3	2	0	2	3	3	6	1	2	1	0	3	2	0		
新潟市	53	24	14	22	15	7	20	28	25	15	9	12	10	1	19	23	1		
三条	13	7	1	7	3	1	5	9	3	4	3	6	0	0	7	9	0		
長岡	3	0	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0		
魚沼	6	3	1	1	1	1	4	3	2	4	3	2	2	1	1	1	1		
十日町	2	0	0	1	1	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0		
柏崎	4	2	0	4	3	0	3	3	1	3	2	3	2	0	1	4	0		
上越	12	0	0	0	0	0	0	1	1	7	0	0	1	0	0	0	0		
佐渡	4	0	0	2	1	0	1	1	0	3	1	1	1	0	0	0	0		
計	110	40	18	40	26	9	37	50	37	43	20	27	17	2	31	39	2		

にこにこ通信(上越支部)



様式① 在宅訪問栄養ケア申込書 兼 栄養食事指導指示書 (FAX 可) 紹介元医療機関:令和 年 月 依頼先:上越栄養ケアステーション 行 Tel:025-520-7500 医療機関名: Fax:025-520-8686 主治医名 所 在 地: フリガナ 生年月日: T / S. 対象者氏名 23 住所 適 応 保 険 □医療保険 □介護保険 (介護申請されている方は、介護保険優先です。) 訪問栄養食事指 導が必要な理由 〈治療状況と、栄養食事指導指示内容〉 □糖尿病(インスリン ・ 経口薬 ・ 投薬なし □脂質異常症 □高血圧症 □高尿酸血症 □慢性腎臓病 栄養食事指導 対象の疾患名 □低栄養 □摂食・嚥下障害 その他(□病態に対し適正な 栄養量を管理栄養士が 算出すること。 □エネルギー … でたんぱく質 … 「塩分……」 g □たんぱく質g □ 脂質g 栄養量の指示 □塩分.....g □食事アセスメント □ ヘルパーと協働で指導 □ 生活習慣の見直し □食事指導(治療食) □ 調理指導 □その他(特記事項 □検査データを、別紙に添付します。 様 (医療機関名) お申込みいただき、有難うございました。 上記の申込みを受理いたしました。 在宅訪問登録管理栄養士が下記のように決定いたしましたので、取り急ぎ報告いたします。 在宅訪問登録管理栄養士 電話番号: *追って本人から履歴書と管理栄養士登録証の写しを (持参・郵送) いたします。 上越栄養ケアステーション 訪問栄養食事指導部門担当: 公益社団法人新潟県栄養士会上越支部

認定栄養ケア・ステーション

認定栄養ケア・ステーション しなの薬局





認定栄養ケア・ステーション よりそいーと 魚沼





① 在宅栄養ケア総合研修会

○ 研修方法: Web研修会(YouTube)配信

○ 配信期間:2022年12月1日(木)~12月8日(木)

講演『金沢栄養ケアセンターの取り組み』

講師 櫻井千佳 管理栄養士 食事の教室くでんの主宰

受講者数 延べ数 137名

〇 受講案内先

新潟県栄養十会会員

新潟県福祉保健部健康づくり支援課

新潟県医師会・新潟県医師会在宅医療推進センター

新潟県歯科医師会·新潟県薬剤師会·新潟県看護協会

新潟県訪問看護ステーション協議会・新潟県歯科衛生士会

新潟県リハビリテーション専門協議会・新潟県介護支援専門員協会

新潟県介護福祉士会担当者

在宅栄養ケア研修会 講演 (Web 配信)

參加費 無料

配信期間 2022.12.1 (木) ~12.8 (木)

~ 地域で安心して暮らしていくための 食・栄養からのアプローチ

講演『金沢栄養ケアセンターの取り組み』



櫻井千佳先生

金元人子来子州・明本加子明子市和時間 2012 年波米、シカゴにて料理教室や離乳食調座等を実施 帰国後、フリーランスとして開業 2014 年~食事の教室くでんの主宰 2017 年~NPO 法人がんとむきあう会割理事長 2019 年 10 月開設の金沢栄養ケアセンターでは、開設準備段よ 金沢学院短期大学食物栄養学科、石川県歯科医師会立歯科医療

専門学校、金沢医科大学看護学部 で非常動講師

新海所来衰工去では、地域で来受了アに対応できる人特の内域を進めています。 今回は、石川県栄養工会が運営する、いしかわ栄養ケア・ステーションのサテライト施設として、 全沢市と金沢市医師会の協力により、金沢健康福祉財団内で開設された 金沢栄養ケアセンターにおいて、在宅献 養者への栄養支援、クリニックや病院への栄養支援を実践されている講師より、医師会及び多職種との連携による 在宅訪問栄養指導の実際や地域に向けた幅広い活動についての講演をいただきます。 豊富な知識、経験をご紹介いただき、管理栄養士の地域における栄養ケア活動の実際を学んでいただくための研修

受講申し込み:事前申し込みは不要です。 ※受講方法は裏面をご覧ください。↩

視聴期間 :2022年12月1日(木)12:00~12月8日(木)12:00 web 配信

参加費 :無料-

> 公益社団法人 新潟県栄養士会 栄養ケア・ステーション 担当 久志田・山川。 AMERICAN MIGRICAGE 本様 アン・ステーション 担当 久志田・川川・ 〒951-8052 新潟市中央区下入川龍連4/町 2230 番地エスカイア大川前プラザ 108 号-TEL 025-224-7501 FAX 025-224-0510

Email:n.eiyou-cs@forest.ocn.ne.jp-

2022年度 在宅栄養ケア総合研修会アンケート集計 (配信期間:2022.12.1~12.8)

1. 受講申し込みフォーム
 入力人数 延べ137人

職種を教えて下さい。

1.	医師	0
2.	歯科医師	2
3.	薬剤師	0
4.	歯科衛生士	4
5.	ケア・マネジャー	0
6.	ヘルパー	1
7.	栄養士・管理栄養士	126
8.	その他	4
	合計	137

その他:看護師2、理学療法士2

受講後アンケート アンケート提出人数 38人

①あなたの職種は?

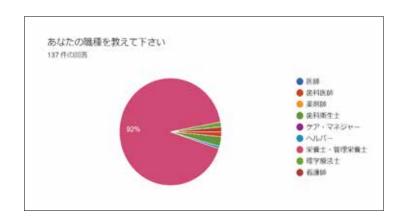
1.	医師	0
2.	歯科医師	0
3.	薬剤師	0
4.	歯科衛生士	2
5.	ケア・マネジャー	0
6.	ヘルパー	0
7.	栄養士・管理栄養士	36
8.	その他	0
	合計	38

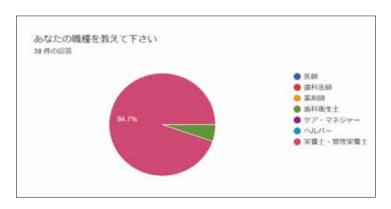
②栄養士会会員ですか。

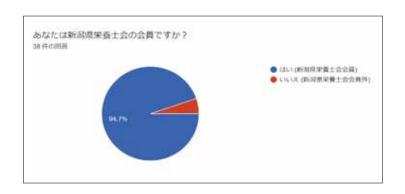
1. はい	36
2. いいえ	2
合計	38

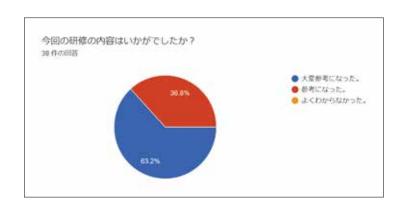
③研修内容の感想

	合計	38
4.	その他	0
3.	よくわからなかった	0
2.	参考になった	14
1.	大変参考になった	24









④講演内容の感想 (要約)

- ・多職種との連携での活動が大切だと痛感した。(9人)
- ・金沢栄養ケアセンターはすごいと思った。(6人)
- ・石川県の栄養ケアは非常に進んでいて、仕組み作りもとてもよくできている。(3人)
- ・明確なビジョンを持ち計画的に進めていると感じた。(2人)
- ・新潟県でも参考にできそうな事から実施できたらと思った。(4人)
- ・新潟県と比較しあまりの違いに驚いた。医師会との連携、他職種とのつながり方、会員との目的意識の共有 など一つ一つをお教えいただきたいと思った。
- ・新潟県はかなり広い地域であり、一体化するには課題が山積している。
- ・新潟でも始めるのであれば、きちんとした人員確保が必須と感じた。副業では中途半端になる。
- ・在宅療養には栄養ケアステーションの活動が必要。(3人)
- ・在宅栄養ケアの取り組み実践について学ぶことができた。(4人)
- ・最後に、食べることの大切さの話をされていたことが、とても印象的だった。(2人)
- ・先生の患者さんに寄り添う気持ち、熱意が伝わってきた。(3人)
- ・多職種との合同研修会や検討の場など、継続的且つ頻回に行うことが重要だと感じた。(2人)
- ・食料構成表が印象に残った。幅広い活動をされている先生の講演は大変参考になった。
- ・管理栄養士がどこにいて相談できるのかを明確にするため、場を設置をすることが重要だ。
- ・少しでも地域に目を向けていければいけないと感じた。(2人)
- ・管理栄養士としての使命とさらなる研鑽の必要性を感じた。
- ・在宅栄養指導は、管理栄養士から積極的にアクションをする重要性がよく理解できた。
- ・医師会との連携がやはりキーポイントになるという事を実感した。

⑤今後受講したい研修講師や内容

- ・各県でのCSの取り組み(3人)
- ・在宅訪問の事例(2人)
- ・ハイリスクの方の事例
- ・ 通所系事業所のおける栄養ケア (できれば外部から派遣で) の事例
- ・介護分野外の在宅栄養(小児分野等)の活動
- ・他職種も参加できる事例検討会
- ・事例をもとに実習をしてみたい。(グループに分かれロールプレイング)
- ・行動変容の手法
- ・がん患者の食支援
- ・吉田貞夫先生(沖縄メディカル病院 副院長/ 金城大学 客員教授/ 医師・医学博士)の講演
- · 摂食嚥下(2人)
- ・在宅の食事療法の最新情報
- ·多職種連携
- ・高齢者や食事療法をしている方に特化した災害、防災食
- ・PESでの報告書の書き方
- ・奥村圭子先生(地域CSはらペこスパイス 日栄2020.3掲載)

⑥その他の感想、意見

- ・生きる喜びにつながる食支援のために、私も勉強を続けていきたい。
- ・介護施設において、利用者への在宅栄養指導は様々な課題があり難しい現実がある。
- ・今後も研修会を企画して欲しい。研修会に参加したい(5人)

②人材育成研修会

在宅栄養ケア研修会 (Web配信)

2022年度『管理栄養士人材育成研修会』

○研修方法 : Web研修(YouTube)配信期間各回1週間

○研修内容 : 5回シリーズ 各回60分

1回目 6月30日(木)~ 7月6日(水)

「栄養指導報告書の記入について |

講師:新潟県立大学 村山稔子管理栄養士

受講者:61名

2回目 8月4日(木)~ 8月10日(水)

「摂食・嚥下ケアが必要な療養者の対応について (講演)」

講師:日本歯科大学新潟病院 近藤さつき管理栄養士

受講者:54名

3回目 9月1日 (木) ~ 9月7日 (水)

「摂食・嚥下ケアが必要な療養者の対応について(演習)|

講師:日本歯科大学新潟病院 近藤さつき管理栄養士

受講者:64名

4回目 9月29日 (木) ~ 10月5日 (水)

「福祉施設における介護報酬改定の取り組みについて」

講師:福祉事業部

①特別養護老人ホーム いなほ園 松浦祐美子管理栄養士

②特別養護老人ホーム 黒埼の里 鬼立絵梨子管理栄養士

③特別養護老人ホーム ブナの里 横山奈津代管理栄養士

受講者:62名

5回目 10月27日 (木) ~ 11月2日 (水)

「在宅リハと栄養ケアについて、リハ職の地域活動について」

講師:新潟県理学療法士会 押木内科神経内科医院 大野智也理学療法士

受講者:57名

第1回人材育成研修会アンケート集計 (配信期間:2022.6.30~7.6)

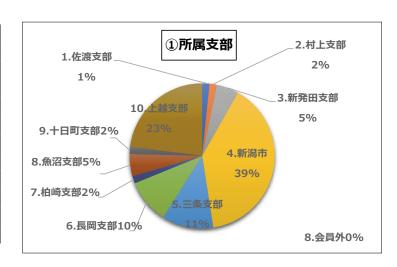
受講申し込み者数112名

受講回数:延べ134回

アンケート回答:61名(アンケート回収率54.5%)

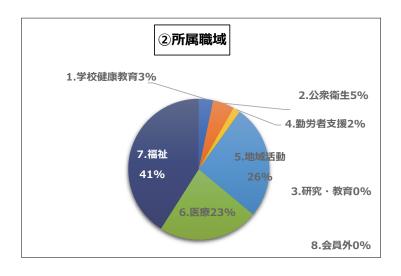
①所属支部

1.佐渡支部	1
2.村上支部	1
3.新発田支部	3
4.新潟市支部	24
5.三条支部	7
6.長岡支部	6
7.柏崎支部	1
8.魚沼支部	3
9.十日町支部	1
10.上越支部	14
11.会員外	0
合計	61



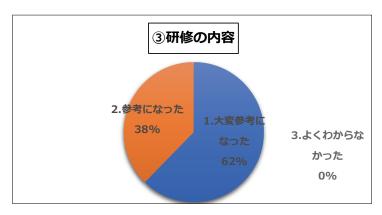
②所属職域

1.学校健康教育	2
2.公衆衛生	3
3.研究·教育	0
4.勤労者支援	1
5.地域活動	16
6. 医療	14
7.福祉	25
8.会員外	0
合計	61



③研修内容について

1.大変参考になった	38
2.参考になった	23
3.よくわからなかった	0
合計	61



④研修の参加目的(複数回答可)

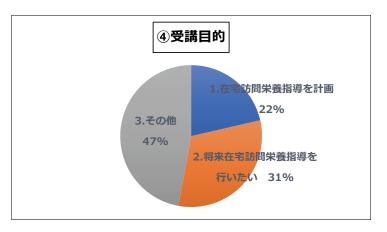
1.在宅訪問栄養指導を計画	15
2.将来在宅訪問栄養指導を行いたい	22
3. その他	33
合計	70

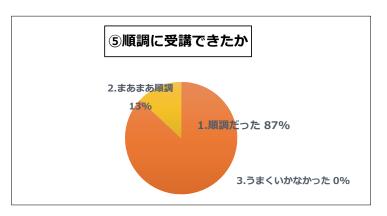
④-3.その他

- 自己研鑽のため(13)
- ・現在行っている業務(在宅訪問栄養指導以外の業務)に役立てたい。(8)
- ・在宅訪問栄養指導に興味がある。(6)
- ・研修の内容に興味があった。(3)
- ・受講を勧められた。(2)
- ・今後高齢者施設で勤務したい。

⑤順調に受講することができたか

O:	
1.順調だった	53
2. まあまあ順調だった	8
3.うまくいかなかった	0
合計	61





⑥研修内容の感想(要約)

- ・今後、読む人に伝わる報告書を作成したい。(17)
- ・大変良かった。(13) ・良かった。(9)
 - 理由 (・基本的な事から学べた。(3)
 - ・具体的な講演だった。(2)
 - 丁寧でわかりやすかった。
 - ・たくさんの事を学べた。
- ・業務に活かしたい、実践したい。(6)
- ・簡潔に的を絞って記載するよう心がけたい。(5)
- ・振り返りができた。(5)
- ・より丁寧に学びたい。(3)
- ・実際の業務では難しい、難しそう。(2)
- ・理解が深まった。
- ・即実践できそう。
- ・SOAPを意識して記録したい。
- ・現在勤務の介護施設はSOAP記載が普及していないので、活用できず残念だが、学んだことを意識して書 こうと思う。
- ・今まで敷居が高いと感じていた栄養ケアプロセスの考え方が、村山先生の解説がわかりやすかったので、今後少しずつでも取り入れて行きたい。
- ・NCPについても聴きたい。

- 「・今まで曖昧だったことがわかった。
- ・ワークがあり考えながら受講できた。
- し、先生のソフトな話し方が良かった。

⑦その他の感想 (要約)

・Web研修は良い。(4)

理由 ・繰り返し受講できる・好きな時に受講できる

- ・今回の講演会のテーマが良かった(3)
- ・現場を離れた私のような人も受講できる、今回のような研修はとてもありがたい。
- ・今回のテーマで、実践編の研修もあると嬉しい。
- ・資料の印刷について

「白黒に印刷すると、カラフルな色分け部分が黒塗りになってしまった。

印刷の設定が自分の思っている様式にならなかった。

- ・在宅訪問栄養指導の訪問中の際の安全対策はどのようになっているか。また、介護現場でおこるような問題 (ご家族の理解、ご本人の介護抵抗等)が訪問の場面で起きた場合のフォロー体制は整っているのか。
- ・栄養ケアプロセスを学べる場を作ってもらいたい。

第2回人材育成研修会アンケート集計 (配信期間:2022.8.4~8.10)

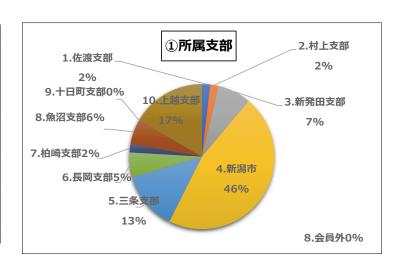
受講申し込み者数:112名

受講回数:延べ199回

アンケート回答:54名(アンケート回収率48.2%)

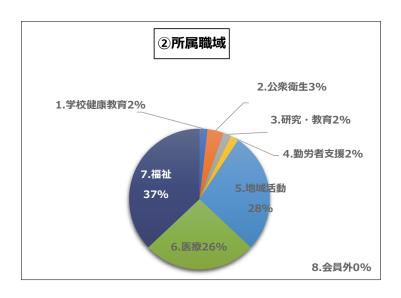
① 所属支部

1.佐渡支部	1
2.村上支部	1
3.新発田支部	4
4. 新潟市支部	25
5.三条支部	7
6. 長岡支部	3
7. 柏崎支部	1
8. 魚沼支部	3
9.十日町支部	0
10.上越支部	9
11.会員外	0
合計	54



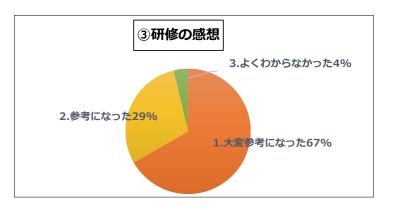
② 所属職域

1.学校健康教育	1
2.公衆衛生	2
3.研究·教育	1
4.勤労者支援	1
5.地域活動	15
6. 医療	14
7.福祉	20
8.会員外	0
合計	54



③ 研修内容について

1.大変参考になった	36
2.参考になった	16
3.よくわからなかった	2
合計	54

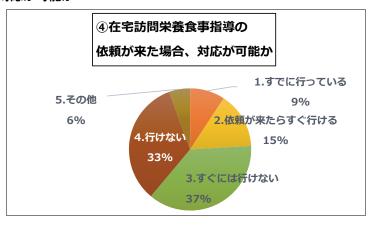


④ 在宅訪問栄養食事指導の依頼が来た場合、対応が可能か

1.すでに行っている	5
2.依頼が来たらすぐ行ける	8
3. すぐには行けない	20
4.行けない	18
5.その他	3
合計	54



- ・内容により出勤可能.
- ・コロナ感染状況を見ながら検討したい。
- ・まだわからない.



⑤ ④問いで3.4.5. (すぐには行けない、行けない、その他)とお答えの理由は? (要約)

- ・常勤勤務や1人職場等、業務との両立が難しい(15)
- ・業務との調整が必要(4)
- 自信がない(2)
- ・感染状況を見ながら検討したい

- ·勉強不足、経験不足(8)
- ・職場の理解が難しい、業務以外はできない(3)
- 家庭の事情(2)
- ・準備が整っていない

⑥ 研修内容の感想

- ・動画で実際の症例、口腔内の様子、指導の様子を見ることができて良かった。(29)
- ・これからの業務に役立てたい。(5)
- ・音声が聞き取りにくかった。(4)
- ・日々の業務を反省した。
- ・実際の症例を見られたのはよかったが、基礎知識がないため、評価方法などわからないことがあった。
- ・さまざまな疾病の方が対象になるので、疾病についても勉強会が必要になると感じた。
- ・食事観察から、その方の食べ方の特性も含めた食形態の設定や、嚥下・運動の訓練をしていく必要性がある ことが、よくわかった。
- ・それぞれの患者さんの食形態に合った食事指導を行うため、初めの聞き取り調査はとても重要だと感じた。
- ・食事観察は、在宅においても施設などでも大変重要と思っているが、在宅の場合、「食事している姿を30分ずっと見ている」という栄養士の行動を対象者が不快まではいかないにしても、良い気分にはならない事もあり、悩むことも多い。
- ・最近、歯科医院での管理栄養士の募集を見た。管理栄養士がどの様に歯科医院で患者へ指導するのかと考えていたが、今回の講義で想像がついた。
- ・食事時の観察ポイントをもう少し詳しく知りたい。
- ・近藤先生の講演はいつもわかりやすくお話ししてくださりありがたい。
- ・対象者に寄り添って支援されている姿に共感した。
- ・調理実習を行った症例が特に印象的だった。これから身体が動きにくくなる事が予測できている方に、楽しい時間や希望をもっていただきたいという思いで多職種で取り組まれた事に感動した。
- ・私もいつかは近藤先生のように在宅でも活躍できるような管理栄養士になるべく日々勉強中です。

⑦「モデル・在宅訪問栄養指導事業の説明(担当:久志田)」の感想

- ・件数が増えると、デイサービスなどの利用者に役立てると感じた。
- ・事業が進んで欲しい。
- ・情報提供等のルートが連携機関ごとに異なることを学ぶことができた。
- ・依頼元が医師に働きかけをしていただけるのはありがたい。
- ・体系的に行われてると感じた。(2)
- ・具体的にどのような流れで行っているのか理解することができた。(3)
- 経路が分かり良かった。
- 事業の中身について、知ることができ良かった。
- ・具体的にどのような流れで行っているのか理解することができた。
- ・フローが非常にわかりやすかった。多くの専門職・人が関わるため、滞りの無い連絡が必要だとわかった。
- ・地域によって事業の流れや対象者が違う事が、よくわかった。他職種との連絡や調整が多く、実際やる事になったら「できるか」少し不安になった。(2)
- ・特養にいると、施設の中だけで終わってしまい、在宅=家族やケアマネとの連携まで結びつけることが容易ではない。しかし、説明を聞き、受け身ではなくこちらからもアピールできる何かを考えなければなと感じた。 (佐渡支部会員)
- ・他職種からの紹介のモデル訪問を実施する支部を教えて欲しい。
- ・細かな書類が多すぎる気がする。

⑧ その他の感想

- ・施設に勤務しながらの業務は現在大変難しいとは感じるが、事業が盛んになると管理栄養士の活躍の場が還元できると改めて思った。
- ・大学の実習で近藤先生にお世話になり、摂食嚥下障害に興味を持った。実際に、摂食嚥下障害患者の食事観察やVF食の調整を行うようになり、摂食嚥下の知識の重要性を実感している。今回、食事観察のポイントを改めて学び、実際に活かしていきたいと思った。
- ・VE.VFができない場合がほとんどなので、使用しない場合の対応、判断について示していただけるとありがたい。(重度の嚥下困難の場合)
- ・仕事として今後必要性が増してくる分野であり、興味はあるが、専門知識が乏しく、栄養士会などの支援が ないとなかなか難しいと思った。
- ・在宅医療(栄養)推進事業モデル在宅訪問栄養指導の事業説明を県のHPに掲載していただけると有難い。
- ・具体的な講演が多く良いと感じている。

第3回人材育成研修会アンケート集計 (配信期間:2022.9.1~9.7)

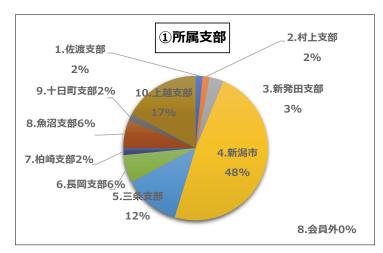
受講申し込み者数:115名

受講回数:延べ140回

アンケート回答:64名(アンケート回収率55.7%)

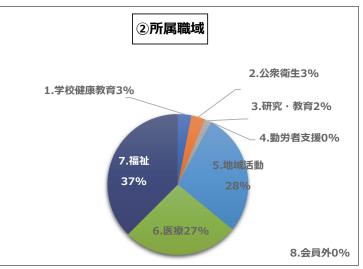
①所属支部

O 11111 14 1411	
1.佐渡支部	1
2.村上支部	1
3.新発田支部	2
4.新潟市支部	31
5.三条支部	8
6.長岡支部	4
7.柏崎支部	1
8.魚沼支部	4
9.十日町支部	1
10.上越支部	11
11.会員外	0
合計	64
11.会員外	0



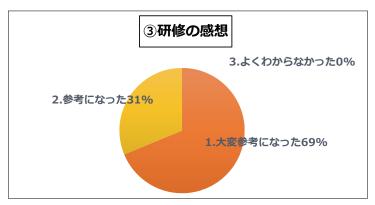
②所属職域

1. 学校健康教育	2
2.公衆衛生	2
3.研究·教育	1
4.勤労者支援	0
5. 地域活動	18
6. 医療	17
7. 福祉	24
8.会員外	0
合計	64



③研修内容について

1.大変参考になった	44
2.参考になった	20
3.よくわからなかった	0
合計	64



④研修内容の感想 (要約)

- ・学会分類への理解が深まった。(22)
- ・具体的でとても参考になった、ポイントが分かった。(18)
- ・手軽な食材や市販品を活用していていたので、大変参考になった。(7)
- ・実践につながる内容だった。(5)

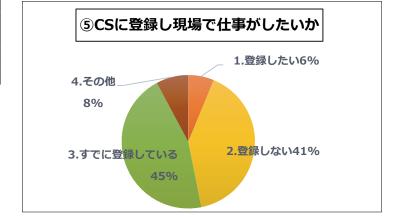
- ・レシピが参考になった。(4)
- ・動画でわかりやすかった。(4)
- ・大変わかりやすかった。(6)
- ・見ごたえのある調理実習だった。(2)
- ・定期的に摂食嚥下についての講演をお願いしたい。(2)
- ・日々臨床現場にいるからこそ見えてくる注意点等も教えていただけて良かった。(2)
- ・今までの自分の経験上感じていたことを演習で証明していただけたのでよかった。
- ・今後、どのコードにあてはまるかを考えて生活したい。
- ・ご家族様に説明しやすく理解も得やすい調理法だった。
- ・老々介護でもハードルが高くないアレンジを学べた。
- ・指導の際、商品名をあげて提案していきたい。
- ・嚥下調整食を作ることへのハードルが下がる方法を様々学ぶことができたので、患者のQOL向上に繋がるのではないかと感じた。
- ・嚥下食は特別なものではなく、普段食べている食事に手を加える実践を見せて頂けた。
- ・調味料によってとろみ加減が変わることがわかった。
- ・今回の講演は離乳食にも応用できそうだと思った。

⑤研修会後、栄養ケア・ステーションに登録し地域ケアに関わる現場で仕事をしたいと考えますか?

1.研修会終了後、登録したい。	4
2.研修会終了後、登録しない。	26
3. すでに登録している。	29
4. その他	5
合計	64

⑤-4.その他

- ・今はまだ活動できないが、興味はある。
- 登録するか迷っている。
- ・職場に相談しないと決められない。
- · 検討中
- ・現在、長時間家を空けることができないので、家の近くに限らせてもらいたい。



⑥その他感想

- ・動画の期間を延ばしてほしい。
- ・言語聴覚士さんがいない病院なので、看護師の方にも聞いていただきたいほど素晴らしい内容でした。
- ・時々聞きづらかった。
- ・動画での研修は見やすくて良い
- ・定期的に近藤さつき先生の実践講座を開講していただきたい。
- ・可能であれば今回のレシピを栄養士会の会員専用ページに追加していただけるとありがたい。

第4回人材育成研修会アンケート集計 (配信期間:2022.9.29~10.5)

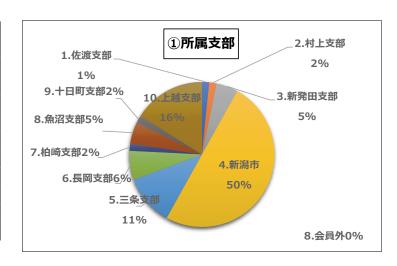
受講申し込み者数:115名

受講回数:延べ148回

アンケート回答:62名(アンケート回収率55.7%)

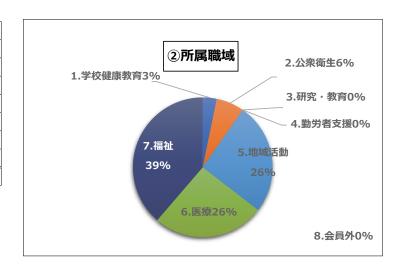
①所属支部

1.佐渡支部	1
2.村上支部	1
3.新発田支部	3
4. 新潟市支部	31
5. 三条支部	7
6. 長岡支部	4
7. 柏崎支部	1
8. 魚沼支部	3
9.十日町支部	1
10.上越支部	10
11.会員外	0
合計	62



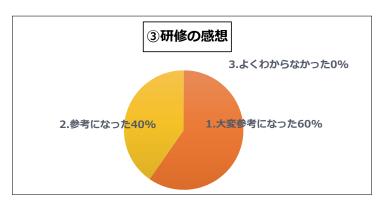
②所属職域

1.学校健康教育	2
2.公衆衛生	4
3.研究·教育	0
4.勤労者支援	0
5.地域活動	16
6. 医療	16
7.福祉	24
8.会員外	0
合計	62



③研修内容について

1.大変参考になった	37
2.参考になった	25
3.よくわからなかった	0
合計	62



④特に印象に残っている研修内容(要約)

- ・LIFEについて (10)
- ・事例について(10)
- ·他職種連携、多職種連携(9)
- ・各施設の管理栄養士がそれぞれの立ち位置で前向きに仕事に取り組んでいる姿(6)
- ・自ら他職員に栄養士をアピールして率先して仕事されていること(5)
- ・福祉施設の栄養管理の実際(4)
- ・福祉栄養士は利用者様の生きがいを支援する仕事(4)
- ・いなほ園の体制と取り組みについて(3)
- ・経口維持加算の算定(3)
- ・栄養改善加算の取組み(3)
- ・加算までの動き(2)
- ・栄養マネジメント強化加算算定取り組み(2)
- ・栄養ケアの大切さや栄養士の必要性が、他職種に知られていない(3)
- ・業務負担増にならない事。特別なことではない事
- ・介護報酬の改定により施設での業務が改善されている
- ・先読みの力の必要
- ・転院される患者さんに切れめのない栄養管理が必要
- ・在宅と福祉の連携
- ・高齢者に寄り添った栄養管理
- ・多くのサービスに管理栄養士の関わりが重要

⑤講演の感想(要約)

- ・介護報酬改定について、それぞれの施設における具体的なお話を聞くことが出来て勉強になった。(6)
- ・介護現場で働いてはいないが、理解が深まった。(6)
- ・今後の業務の参考になった。他施設の取り組みを知ることができ大変参考になった。(6)
- ・福祉施設管理栄養士の方々の努力と熱意が伝わった。(4)
- ・各先生聞き取りやすく、解りやすく説明いただいた。(3)
- ・どの施設も真剣に取り組んでいらっしゃることが理解出来た。
- ・各講師の取り組み、素晴らしい活動報告に脱帽。
- できることはしたいと思った。
- ・栄養マネジメント強化加算を算定することで、栄養改善に繋がるメリットがあるということを知った。
- ・言語聴覚士がいない施設での取り組み、体重増加などが勉強になった。
- ・在宅訪問管理栄養士が必要な理由が理解できた。
- ・在宅で住み慣れた地域で長く過ごしてもらうために、日々仕事をしようと改めて思った。
- ・他職種連携の大切さとともに、職域の違う管理栄養士と繋がるが大切だと再認識した。
- ・各講師の苦労が、栄養ケアの充実に繋がっていくのではないかと感じた。
- ・通所の取り組みが興味深かった。

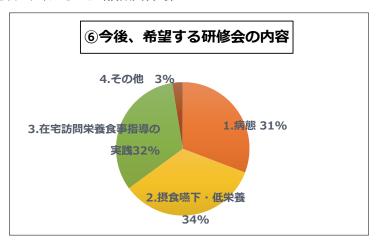
・併設されているデイサービス、ショートステイでの取り組み方も聞いてみたい。

⑥今後、研修会で取り上げて欲しい内容を選択してください。(複数回答可)

1. 病態(脂質異常·癌·認知等)	36
2. 摂食嚥下·低栄養	40
3.在宅訪問栄養食事指導の実践	38
4.その他	3
合計	117

⑥-4.その他

- ・多職種連携の好事例(医療・福祉等)。
- ・通所サービスでの栄養改善加算の詳しい 仕組み。
- ・ケア・マネとのケア計画に沿った取り組み方法について、ケア・マネとの連携について。



⑦今後、研修会で取り上げて欲しい具体的内容

- NPCについて、木戸先生
- ・便秘対策のための食物繊維の摂取について(下剤に頼りすぎないために)
- ・再度、報告書の記入方法について
- ・LIFEのフィードバックの活用法について

⑦その他 意見・感想

- ・今後も研修会を継続して欲しい。(2)
- ・もう少し動画視聴期間を延ばしてほしい。
- ・栄養マネジメント強化加算算定にあたっては、施設の考え方が一番大きいと感じている。 早めに、入所者50人に対して管理栄養士1人の必置義務にしてもらいたい。

第5回人材育成研修会アンケート集計 (配信期間:2022.10.27~11.2)

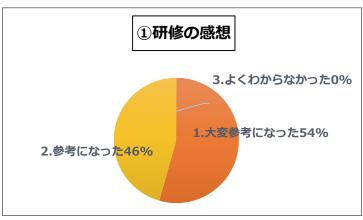
受講申し込み者数:116名

受講回数:延べ145回

アンケート回答:57名(アンケート回収率49.1%)

①研修内容について

1.大変参考になった	31
2.参考になった	26
3.よくわからなかった	0
合計	57

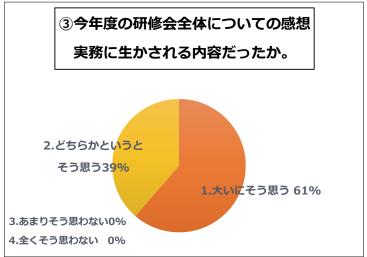


②講演の感想(要約)

- ・栄養士の業務と関係が深いリハ職の役割や理学療法士会組織等を改めて確認する事ができた。(14)
- ・多(他)職種連携の大切さを感じた。(9)
- ・理学療法士・管理栄養士の連携が大切だと感じた。(6)
- ・リハと栄養の連携が今は十分にとれていないと感じた。訪問栄養士の存在・活動を広く知ってもらうように 努めたい。
- ・在宅でPTさんから管理栄養士へという流れになるのは、相当の努力が必要だと感じた。
- ・在宅の現場に栄養を取り入れるまでに至っていない現状がわかった。
- ・栄養士は求められているとわかった(2)
- ・管理栄養士が介入することの必要性を理解してもらいたいと思った。
- ・他職種の方から、介護予防には栄養が重要であると発表いただくのは、非常に背筋が伸びる思いだった。
- ・専門職から必要とされている管理栄養士の介入が、対象者やご家族が望んでいないために進まない現状がある。他職種からも薦めていただけるとありがたい。
- ・現場をイメージできるようになった。
- ・他職種間で気軽に相談し合えるようになると良いと思った。
- ・モデル訪問事業のアウトカム評価を、多職種に向けて勉強会や地域のネットワークに向け発信すると、認知 度向上につながるのではないかと思った。
- ・多職種からのアプローチが対象者の意欲、機能の向上に繋がると思った。
- ・リハビリと栄養の関わりの重要性がよくわかった。
- · shien を知ることができて良かった。(栄養士会会員外)
- ・リハ職の方から直接話を聞けて良かった。(4)
- ・他職種の実際は参考になる(3)
- 協議会あげての活動や保険外活動の実際など、頑張っている姿に刺激を受けた。(3)
- ・現在の業務とは接点がないが、とても興味深い研修会だった。
- ・自分自身の職場でどのように関わっていけるか模索していきたい。(5)
- ・現在医療施設内で成熟している NST 活動が地域 NST として継続的に推進されることの重要性について、理解及び意識づけが現在の栄養士活動に必要と思われた。

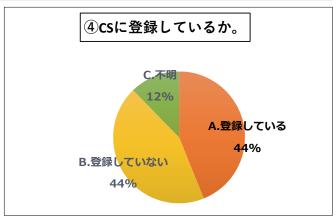
③今年度の管理栄養士人材育成研修会全体について、実務に生かされる内容だったか。

1.大いにそう思う。	35
2. どちらかというとそう思う。	22
3.あまりそう思わない。	0
4.全く思わない。	0
合計	57



4)栄養ケア・ステーションに登録しているか。

A.登録している	25
B.登録していない	25
C.不明	7
合計	57



⑤今後、在宅訪問をしたいと思いますか。

(ケア・ステーションへの登録状況別にアンケート集計)

	A:登録している	B:登録していない	C:不明
1.登録したい。	1	1	1
2. すでに登録している。	15	0	0
3. 自信がないので登録しない。	2	6	1
4.業務の都合で登録できない。	3	10	3
5.登録するか検討中	3	7	1
6.その他	*11	_{*2} 1	_{*3} 1
合計	25	25	7

⑤-6. その他

- ※1・雇用契約が伴わない訪問であれば行いたい。
- ※2・登録しない
- ※3・家庭の事情で登録できない。

⑥その他ご意見

- ・初めての訪問はベテランの方の指導を見せて頂けるシステムがあるとありがたい。
- ・今年度の研修会は仕事に役立つ内容だった。参加してよかった。(6)
- ・また機会があれば学ばせてもらいたい。(2)
- ・WEB研修会で参加しやすい。
- ・地域で畑仕事やお茶飲みや買い物も最期まで生活を楽しめる身体づくりを、サポートしていきたい。
- ・講師先生はとても熱心に活動されていると思った。自分自身はまだまだスキル不足だと実感している。
- ・いずれは訪問分野も含めた活動を行えるようにしたい。

③他職種連携講座・地域栄養ケア活動

14回(延べ30名)

日付け	時間	支部	内容	出席者数
5月15日	13:30~15:00	新潟市	認知症カフェ栄養講座 押木内科医院 (亀田地区コミュニティセンター)	1名
6月7日	17:30~18:30	新潟市	訪問リハ連携 モデル訪問栄養指導について (Zoom)	1名
6月8日	19:30~21:00	新潟市	県歯科医師会連携 モデル訪問栄養指導について (Zoom)	1名
7月6日	19:30~20:30	新潟市	県歯科医師会連携 モデル訪問栄養指導 第1回協議会(Zoom)	4名
7月13日	14:00~16:00	新潟市	県職能団体在宅医療担当者情報交換会 (新潟県医師会館)	1名
7月26日	16:30~17:00	新潟市	栄養ケアステーションの活用について・居宅訪問栄養指導について て (在宅介護支援センターあしぬま荘)	1名
8月29日	15:20~15:14	柏崎	柏崎市市民プラザ介護高齢課 ケアマネージャー研修会及び連絡会議	2名
10月6日	10:30~16:30	新潟市	新潟県民会館 生活習慣病予防展(かん制圧新潟大会)	6名
10月23日	8:30~14:00	佐渡	トキのむら元気館 ・佐渡市健康フェスティバルに参加 栄養相談 低栄養予防弁当政策	5名
10月27日	13:30~16:30	新潟市	南魚沼地域振興局 医療・介護連携の推進に向けた特定給食施設 等研修会 「新潟県栄養ケアステーション及び在宅医療(栄養)推進事業に ついて」	2名
11月6日	9:30~16:00	新潟市	新潟県医師会館 第9回甲信越在宅医療推進フォーラム (第14回在宅ケアを考える集いin越後2022)	2名
12月10日	11:00~11:50	村上	朱鷺メッセ:第2回新潟県リハビリテーション学術大会 サルコペニアの予防-運動・栄養・嚥下-	2名
2月8日	13:30~15:30	柏崎	刈羽村役場: サポートシステムの運用について周知活動	1名
2月21日	15:30~16:30	柏崎	柏崎市役所:サポートシステムの運用について周知活動	1名

4 訪問栄養食事指導症例検討会

第1回 訪問栄養食事指導症例検討会

日時 : 2022年11月12日 (土) 13:30~16:00

web (zoom) 開催

参集者:支部長·支部在宅事業担当者

2022年度県栄養ケア・ステーション栄養

指導業務登録者

内容 : 1 「訪問栄養食事指導・モデル訪問栄養指

導症例報告」

在宅訪問指導実施症例4例

発表後検討会

2「2022年度 在宅事業モデル訪問栄養

指導事業について」 報告及び意見交換

参加者:21名

支部	参加人数
新発田	2名
新潟市	5名
三条	2名
魚沼	2名
十日町	1名
柏崎	2名
上越	2名
役員	3名
事務局	2名

第2回 訪問栄養食事指導症例検討会

日時 : 2022年12月10日 (土) 13:30~16:00

web (zoom) 開催

参集者:支部長・支部在宅事業担当者

2022年度県栄養ケア・ステーション栄養

指導業務登録者

内容 : 1 「モデル訪問栄養指導症例報告 |

在宅訪問指導実施症例5例

発表後検討会

2 「認定栄養ケア・ステーションについて」

発表

しなの薬局 認定CS 代表者

よりそいーと 魚沼 代表者

質疑意見交換

参加者:31名

支部	参加人数
三条	3名
新潟市	11名
魚沼	2名
柏崎	2名
上越	5名
佐渡	1名
長岡	1名
役員	4名
事務局	2名

⑤栄養ケア業務推進事業

会議数4回 (28名)

日付	時間	支部	事業内容	参加人数
4月20日	18:00~19:00	新潟市	福祉事業部準備委員会1(Zoom)	4名
6月1日	18:00~19:15	新潟市	人材育成研修会(第4回)打ち合わせ 福祉事業部の発表について(Zoom)	6名
6月18日	10:00~12:00	新潟市	福祉事業部準備委員会2(Zoom)	3名
10月7日	18:00~20:00	新潟市	第1回福祉事業部ワーキング(Zoom)	15名

⑥支部事業検討会及び研修会

会議数 20回 (163名)

	日付	時間	支部	事業内容	参加人数
1	4月22日	17:00~20:15	新潟市	Zoom 新潟市支部在宅訪問栄養交流会(第1回) ・栄養指導記録をSOAPで記載してみよう	10名
2	4月25日	13:30~15:30	柏崎	柏崎市市民プラザ ・柏崎地域における栄養サポートシステムの運用・活用に ついて ・今年度の取組みについて	7名
3	5月12日	13:00~14:30	柏崎	今後の打ち合わせ	2名
4	5月31日	17:00~20:15	新潟市	Zoom ・新潟市支部在宅訪問栄養交流会(第2回) 食事摂取量のは秋方法について 〜新たに脂肪について考えてみよう〜	13名
5	6月30日	17:00~20:15	新潟市	Zoom ・新潟市支部在宅訪問栄養交流会(第3回) 訪問薬剤師業務について しなの薬局市民前店薬剤師:宮沢憲太	14名
6	9月30日	15:00~17:00	柏崎	柏崎市市民プラザ ・柏崎地域嚥下ピラミッド作成についての検討会	6名
7	10月1日	9:00~11:30	村上	村上生涯学習推進センター2F調理実習室 ・学会分類の市販品を嚥下調整食のコード別に試食し検討 村上地域の嚥下調整食一覧の改訂を行うことにした	3名
8	10月4日	17:00~20:15	新潟市	Zoom ・新潟市支部在宅訪問栄養交流会(第4回) 栄養保持食品・流動食について	8名
9	10月11日	18:15~19:30	新発田	Zoom ・地域嚥下食一覧の運用について	9名
10	10月16日	13:00~15:30	新潟市	支部対話交流会 Zoom : 講演「学校における食育と SDG's の関連」 : ブレイクアウトルームにてフリートーク・発表	30名
11	11月6日	9:50~11:30	佐渡	Zoom ・フリーランス栄養士による講演会、交流会 「豊かに生きるために、いくつになっても食べることを楽しもう! ・子供も大人も一緒になって楽しむコツは?	5名
12	11月8日	18:30~19:30	新発田	イクネスしばた ・しばた栄養サポートについて	5名

	日付	時間	支部	事業内容	参加人数
13	11月9日	15:30~17:10	十日町	十日町市中央学校給食センター ・2022年度在宅事業支部活動について ・食形態一覧について ・管轄医師会との契約による栄養指導について	5名
14	11月25日	13:00~14:00	柏崎	柏崎市民プラザ ・進捗状況 ・今後について	7名
15	11月26日	9:30~11:00	魚沼	Zoom R4年度活動報告及び活動予定について 認定栄養ケアステーション よりそいーと魚沼について 情報交換会 在宅事業について ICT活用について	7名
16	12月6日	18:00~20:00	新潟市	Zoom	15名
17	12月13日	14:00~15:00	長岡市	さいわいプラザ 「在宅訪問栄養指導に係る研修会」 ・中越NST摂食嚥下一覧表の運用について	5名
18	12月19日	19:00~20:15	新潟市	Zoom · 12/20検討会の打ち合わせ	2名
19	12月20日	19:00~20:15	新潟市	Zoom ·新潟市支部在宅訪問栄養交流会(第5回) 症例検討会	7名
20	1月19日	18:00~19:45	上越	謙信公交流館 嚥下調整食一覧施設別ブック検討会 ・活用状況と今後の運用について	3名

Ⅱ. 在宅療養者の栄養ケア推進事業

① 支部長及び在宅事業担当者代表者会議

第1回

日時:2022年7月23日 新潟ユニゾンプラザ

内容: 1. 2022年度 在宅医療(栄養)推進事業 計画案

2. 各支部代表との意見交換

参加者

村上支部	支部長	在宅担当
新発田支部	支部長	在宅担当
新潟市支部	支部長	在宅担当
佐渡支部	支部長	
長岡支部	支部長	在宅担当
魚沼支部		在宅担当
十日町支部	支部長	在宅担当
柏崎支部	支部長	在宅担当
上越支部	支部長	在宅担当
役員	5名	
事務局	4名	

日時:8月19日 ZOOM

内容: 1. 2022年度 在宅医療(栄養)推進事業 計画案

2. 各支部代表との意見交換

参加者

三条支部	支部長	在宅担当			
事務局	1名				

日時:8月26日 ZOOM

内容: 1. 2022年度 在宅医療(栄養)推進事業 計画案

2. 各支部代表との意見交換

参加者

三条支部	在宅担当2名
事務局	2名

Ⅱ. 在宅療養者の栄養ケア推進事業

② 支部・地域包括ケアシステム関連団体への協力要請

訪問件数 計 10 件 (24名)

	日付	時間	支部	訪問先	事業内容	参加人数
1	5月27日	15:30~16:30	柏崎	柏崎・刈羽郡医師会在宅医療介護連 携支援センター	栄養サポートシステムの運用につ いて方針の検討	2名
2	8月16日	14:00~14:30	新潟市	新潟市医師会地域連携室:室長·保 健師	・事業協力依頼・訪問指導説明文 章書式変更の説明・医師への周知 方法・医師文書料について	3名
3	8月23日	16:00~17:00	十日町	・十日町市中魚沼郡医師会・十日町市医療福祉相談窓口・十日町市社会福祉協議会・十日町市東地区包括支援センター	・事業協力要請	2名
4	9月5日	13:40~14:20	新発田	新発田市役所高齢福祉課	・「しばた栄養サポート」の説明及 び運用依頼・包括支援センターへの説明機会 の設定依頼	3名
5		14:40~15:30	新発田	しばた地域医療介護連携センター	・在宅事業への協力要請・「しばた栄養サポート」について	3名
6	9月7日	14:00~15:00	長岡	山谷クリニック (会長・副会長)	・事業協力要請	1名
7	9月12日	13:30~14:30	新発田	新発田地域振興局健康福祉環境部	・在宅事業雄協力依頼 ・「しばた栄養サポート」説明ほか	3名
8	9月22日	9:00~10:30	魚沼	小千谷市魚沼市医師会・小千谷市在 宅医療介護支援センター	・認定ケアステーション「よりそいーと」開設の報告・在宅訪問栄養食事指導の流れについて説明	3名
9	10月5日	9:00~10:15	魚沼	南魚沼市医師会・南魚沼市地域在宅 医療推進センター	・認定ケアステーション「よりそいーと」開設の報告・在宅訪問栄養食事指導の流れについて説明	3名
10	11月21日	13:30~14:10	柏崎	柏崎・刈羽医師会・在宅医療介護連 携支援センター	・協力依頼、周知活動	1名

③ 支部・事業推進会議

会議回数 計 40 件(233 人)

	日付	時間	支部	会場・内容	参加人数
1	4月16日	9:30~11:30	上越	上越市市民プラザ ・今年度体制について ・2021年度事業報告 ・2022年度事業計画	5名
2	4月27日	15:00~17:00	柏崎	柏崎市民プラザ ・支部役員引継ぎ ・本年度事業について ・情報交流会	9名
3	5月13日	18:30~20:00	十日町	十日町中央学校給食センター ・役員新旧引継ぎ 各事業部情報交換 本年度事業について	10名
4	5月16日	18:30~20:00	新潟市	女性団体交流室2 ・地域における在宅ケアの活動について ・在宅事業の支部活動について(計画) ・支部 公益1 地域活動について	15名
5	6月4日	9:30~11:30	上越	春日謙信交流会館 ・今年度の事業計画について ・支部研修会について	10名
6	6月25日	9:45~11:45	村上	村上市生涯学習推進センター3F講座室 ・支部研修会・シンポジウム 「各職域における業務の紹介と現状の課題」	4名
7	6月28日	18:00~19:00	佐渡	金井コミュニティーセンター ・今年度事業について 研修会について 下院情報交流会 ・佐渡市健康フェスティバル参加について	4名
8	7月5日	16:30~17:30	魚沼	北里大学保健衛生専門学校 会議室 ・魚沼委託事業 高齢者に向けた食支援(DVD作成)についての 検討会	7名
9	7月11日	18:30~20:00	新潟市	Zoom ・在宅事業の支部活動について (計画) ・支部 公益1 地域活動について ・支部会員交流会について	10名
10	7月16日	10:00~12:00	上越	上越市市民プラザ ・支部研修について ・今後の予定	3名
11	7月23日	10:00~12:00	新発田	イクネスしばた多目的室1 ・支部活動報告 ・支部研修会 「植物性たんぱく質の効率的な摂取のための豆製品に関する知識」	7名
12	7月27日	15:00~17:00	柏崎	柏崎市市民プラザ交流ルーム ・今年度事業について ・支部研修会その他	5名
13	8月5日	18:00~20:00	十日町	十日町市中央学校給食センター ・今年度事業の計画	5名
14	8月25日	13:00~14:30	新潟市	県栄104号室 通所「きゃすと」栄養改善サービスの今後の取組みについて	3名
15	8月25日	18:00~19:00	新発田	Zoom ・新発田支部事業について	3名
16	9月3日	13:30~15:00	三条	三条市ものづくり学校 ・三条市の訪問事業について ・在宅事業のモデル訪問指導について ・訪問管理栄養士の確保について	4名
17	9月5日	10:00~11:45	三条	三条市ものづくり学校 ・三条市訪問事業について ・在宅事業モデル訪問について ・訪問管理栄養士の確保について ・公民館依頼の調理実習について	7名
18	9月17日	10:00~11:00	上越	上越市市民プラザ ・支部研修について→会場借りれず中止 ・食育実践セミナーについて	4名

	日付	時間	支部	会場·内容	参加人数
19	9月22日	15:45~17:00	村上	Zoom · 10/1の検討研修会について	2名
20	9月27日	18:00~19:00	佐渡	金井コミュニティーセンター ・佐渡市健康フェスティバル参加について ・フレイル、低栄養予防の普及啓発について ・会員研修会について	5名
21	9月29日	15:00~17:30	長岡	さいわいプラザ ・今年度事業についての周知と年間計画の検討	6名
22	9月30日	15:30~16:20	魚沼	Zoom ・魚沼委託事業 高齢者に向けた食支援 (DVD作成) についての検討会 高齢者支援調理講習会について ・FM ゆきぐに活動の情報共有について	5名
23	10月3日	18:00~20:00	新潟市	Zoom	10名
24	10月28日	15:00~17:30	長岡	さいわいプラザ ・支部事業検討会について ・次回の予定	4名
25	11月5日	10:00~11:00	上越	Zoom(ホスト:にしき園) ・事業説明・本会開催の経緯説明	10名
26	11月7日	10:00~11:45	三条	三条市ものづくり学校 ・公民館依頼の調理実習について ・次回勉強会について ・次年度勉強会について	4名
27	11月25日	13:00~13:25	三条	つばめ福寿園 ・三条支部の活動について ・三条地域の嚥下食形態一覧表について	3名
28	11月29日	13:30~17:00	新潟市	県栄104号室 ・来年度在宅事業について	3名
29	12月2日	9:00~10:40	長岡	さいわいプラザ ・支部事業検討会について	4名
30	12月9日	13:15~15:00	新潟市	県栄104号室 ・来年度在宅事業について	5名
31	12月15日		十日町	メールにてやり取り ・魚沼地域における病院・施設の食形態一覧表の会員周知について	5名
32	12月20日	13:00~14:00	新潟市	Zoom ・支部長面談(支部事業について) 魚沼支部	6名
33	12月21日	15:00~16:00	新潟市	Zoom ・支部長面談(支部事業について) 村上支部	6名
34	12月22日	18:00~19:00	新潟市	Zoom ・支部長面談(支部事業について) 新発田支部事業について	7名
35	12月23日	18:00~19:00	新潟市	Zoom ・支部長面談(支部事業について) 新潟市支部	6名
36	12月26日	14.00~16:00	新潟市	県栄104号室 ・新制支部について	5名
37	12月27日	14:00~16:00	新潟市	Zoom ·契約指導者情報交換会	5名
38	1月11日	13:30~15:00	新潟市	県栄104号室	5名
39	1月19日	17:00~20:50	新潟市	県栄104号室 · 栄養指導用媒体作成	3名
40	1月23日	14:00~16:00	新潟市	県栄104号 ・嚥下調整食一覧のWebサイトについての説明会 ・来年度在宅事業について	9名

④モデル在宅訪問栄養食事指導 総件数18件 延べ訪問回数53回

A: 県歯科医師会連携 6件 B: 新潟リハビリセンター病院連携 1件 C: 訪看・ケアマネ連携 11件 **2023年2月9日現在**

								2020年2月9日現在
番号	指導 区分	患者 番号	性別	年齢	介護度	家族構成	住所	紹介理由
1	А	三条1	女性	64歳	要介護4	夫・次男	燕市	多系統萎縮症による摂食障害 自宅で の嚥下調整食の指導と低栄養予防の指 導
2	А	三条3	女性	82歳	要介護5	子ども2人	三条市	重症筋無力症 食形態コードのレシビ と食事の充足状況の確認
3	А	三条4	男性	68歳	要介護3	妻	三条市	嚥下状態にあった食形態の調理方法を 知りたい
4	А	長岡1	男性	72歳	要介護2	妻	見附市	胃瘻から経口摂取移行する為カロリー 計算他栄養指導希望
5	А	長岡2	男性	87歳	要支援2	妻	長岡市	食事摂取量減少、食事に時間がかかる。 補助栄養食品利用食事指導希望
6	А	長岡3	女性	91歳	要介護4	娘夫婦 孫1人	長岡市	姿勢保持困難・嚥下・咀嚼力低下 具体的な食事の提案
7	В	新潟5	女性	76歳	要介護2	夫・長男	新潟市	脳梗塞発症後後遺症で失語症。夫への 調理指導
8	С	新潟1	男性	71歳	要介護2	妻	新潟市	癌治療後の食欲低下
9	С	新潟2	女性	82歳	要支援2	夫・子ども夫婦	新潟市	新潟市フレイル事業からの 訪問指導 継続
10	С	新潟3	女性	5歳	_	両親・祖母・姉	新潟市	体重増加少ない、滑らか食の作り方に ついて家族指導
11	С	新潟4	男性	82歳	要介護1	妻	新潟市	新潟市フレイル事業からの 訪問指導 継続視覚障害者 塩分制限 カロリー 制限の周知
12	С	新潟6	女性	90歳	_	_	_	腎症の食事について自宅での調理指導
13	С	新潟7	女性	87歳	要介護3	息子夫婦孫1人	新潟市	味覚障害あり、嚥下機能評価からの食 べやすい食事と体重管理
14	С	新潟8	女性	84歳	要支援1	夫	新潟市	腎機能低下の為食事指導を受けたが実際の食事について疑問点が多く困っている
15	С	新潟9	女性	87歳	要介護4	夫・長男	新潟市	夫・息子が介護 ヘルパーのサービス が入っている。食事の説明希望
16	С	三条2	女性	85歳	要支援2	長男・孫2人	三条市	消化器術後体重減少でフレイル状態
17	С	三条5	女性	66歳	要支援2	長男	三条市	糖尿病診断 体重増加 開業医で専門 的な食事指導受けられない為訪問栄養 指導の希望
18	С	新発田1	男性	72歳	要介護1	妻	新発田市	血糖コントロール目的食事指導介入

紹介者・依頼主	医科主治医	担当ケアマネ	担当栄養士 所属支部	訪問日 回数
歯科医院 燕市弥彦在宅歯科連携	クリニック	居宅介護支援 介護事業所	三条	4回
歯科クリニック 三条歯科医療連携	病院	居宅介護支援 介護事業所	魚沼	2回
歯科クリニック 三条歯科医療連携	クリニック	居宅介護支援 介護事業所	三条	4回
歯科医院 見附市在宅歯科連携室	病院	居宅介護支援 介護事業所	魚沼	4回
歯科医院 長岡在宅歯科連携室	クリニック	居宅介護支援 介護事業所	長岡	2回
歯科医院 長岡在宅歯科連携室	診療所	居宅介護支援 介護事業所	長岡	2回
担当訪問リハ 担当ケアマネ	新潟リハビリセンター 病院	居宅介護支援 介護事業所	新潟市	2回
訪問リハ PT	クリニック	居宅介護支援 介護事業所	新潟市	2回
担当ケアマネ	クリニック	居宅介護支援 介護事業所	新潟市	3回
訪看護ステーション	病院	相談支援センター	新潟市	4回
担当ケアマネ	クリニック	居宅介護支援 介護事業所	新潟市	3回
訪看ステーション	病院	中止		
担当ケアマネ 歯科クリニック	クリニック	居宅介護支援 介護事業所	新潟市	4回
担当ケアマネ	クリニック	居宅介護支援 介護事業所	新潟市	3回
担当ケアマネ	クリニック	居宅介護支援 介護事業所	新潟市	3回
地域包括支援センター	クリニック	地域包括支援センター	三条	4回
居宅介護支援 介護事業所 ケアマネ	クリニック	居宅介護支援 介護事業所	魚沼	3回
担当ケアマネ	クリニック	居宅介護支援 介護事業所	新潟市	4回

栄養改善サービス

[契約事業所]通所介護施設[契約開始]2020年3月

[対象者数] 2022年4月~ 要介護 2名 要支援 1名

2022年5月~ 要介護 2名 要支援 0名

2022年10月~ 要介護 1名 要支援 1名

【実績】

6日 施設面談 4月 12日 施設面談	要介護 2 要支援 1 要介護 2	
	21213/2	
	要介護 2	
20日 施設面談	女// 版	
6日 施設面談	要介護 2	
5月 22日 施設面談	要介護 2	
6日 11日 施設面談	要介護 2	
6月 25日 施設面談	要介護 2	
9日 施設面談	要介護 2	
7月 20日 施設面談	要介護 1	
30日 施設面談	要介護 1	
8月 10日 施設面談	要介護 2	
7日 施設面談	要介護 2	
9月 21日 施設面談	要介護 2	
5日 施設面談	要介護 2	
10月 11日 施設面談	要支援 1	
19日 施設面談	要介護 2	
9日 施設面談	要支援 1	
15日 施設面談	要介護 1	
11月	要支援 1	
19日 施設面談	要介護 2	
7日 施設面談	要介護 1	
12月 13日 施設面談	要支援 1	
21日 施設面談	要支援 1	
14日 施設面談	要介護 1	
1月 17日 施設面談	要支援 1	
25日 施設面談	要介護 1	

⑤栄養ケア推進会議

会議数 24回 (121名)

	日付	時間	支部	事業内容	参加人数
1	4月8日	18:30~20:30	新潟市	第3回ワーキング会議(Zoom)	5名
2	4月18日	13:05~15:00	新潟市	県栄104号室 第1回ケアメグ 今年度事業計画ほか	5名
3	5月12日	18:30~19:30	新潟市	第4回ワーキング会議(Zoom)	5名
4	5月16日	13:00~15:00	新潟市	県栄104号室 第2回ケアメグ 今年度事業計画ほか	6名
5	5月19日	19:00~21:00	新潟市	(Zoom) モデル訪問栄養指導についての意見交換会(新潟県歯科医師会 主催) 県歯科医師会連携モデル訪問栄養指導について ・R3年度報告と今年度の事業について	4名
6	5月26日	18:30~20:45	新潟市	第5回ワーキング会議(Zoom)	5名
7	6月3日	18:30~20:30	新潟市	第6回ワーキング会議(Zoom)	6名
8	6月13日	13:30~16:00	新潟市	第5回在宅事業検討会(県栄104号室)	6名
9	6月17日	18:30~20:30	新潟市	第7回ワーキング会議(Zoom)	6名
10	7月5日	13:00~16:00	新潟市	第6回在宅事業検討会(県栄104号室)	6名
11	7月8日	18:30~20:00	新潟市	第8回ワーキング会議(Zoom)	5名
12	7月11日	13:00~16:00	新潟市	第7回在宅事業検討会(県栄104号室)	6名
13	7月14日	9:00~12:00	新潟市	第8回在宅事業検討会(県栄104号室)	6名
14	7月27日	15:00~17:10	新潟市	R4年度在宅医療(栄養)推進事業について(県栄104号室)	6名
15	8月4日	10:00~13:00	新潟市	第9回在宅事業検討会(県栄104号室)	6名
16	8月29日	9:30~12:00	新潟市	第10回在宅事業検討会(県栄104号室)	5名
17	9月16日	9:30~12:00	新潟市	第11回在宅事業検討会(県栄104号室)	6名
18	10月5日	13:00~15:30	新潟市	第12回在宅事業検討会(県栄104号室)	5名
19	10月22日	13:00~15:30	新潟市	第13回在宅事業検討会(県栄105号室)	7名
20	11月10日	14:00~16:30	新潟市	在宅医療介護連携推進事業研修会(Zoom)	3名
21	11月13日	10:00~12:00	新潟市	県栄108号室 ・来年度以降の在宅補助事業について	5名
22	1月14日	9:00~12:00	新潟市	県栄104号室(Zoom) 新体制による支部活動の説明会(1回目)	6名
23	1月17日	18:00~18:40	新潟市	Zoom 新体制による支部活動の説明会(2回目)	2名
24	1月18日	18:00~18:40	新潟市	Zoom 新体制による支部活動の説明会(3回目)	3名

6評価委員会

ア 評価委員会の開催

会議 実施日	出席者	詳細
第1回 2022年7月28日 19:00~20:30 オンライン (ZOOM)	外部評価委員7名 栄養士会担当者5名	(1) 自己紹介(2) 2022年度在宅医療(栄養)推進事業の進捗状況(3) その他
第2回 2023年1月26日 19:00~20:30 オンライン (ZOOM)	外部評価委員7名 栄養士会担当者6名	(1) 2022年度 在宅医療(栄養)推進事業報告書(案)(2) 評価項目について

イ 評価委員会の事業評価

第1回評価委員会 2022年7月28日(木)

評価項目:事業計画ならびに実施内容

- 1 新潟県における在宅療養・介護者のニーズにマッチしているか
- 2 他に大きな見落としは無いか。

評価委員	評価・検討課題
県医師会 井口清太郎 様	 1. 各支部での活動にムラがあるのはある程度致し方ないと思われるが、全体の底上げを図る必要があり、またそのための活動も始まっているようなので経過を注視したい。 ・医師会との連携が今ひとつうまくいっていないようだが、これらについても何が問題なのか精査して行く必要がある。また他の都道府県での成功事例などを参考にしてより普遍的なものとなることを目指す(私の責任もあると思っています…すみません)。 ・Webを多用したセミナーや講習会を開催しており、それらが定着しつつあるのは良いことと考える。 2.
有識者医師 小山諭 様	1 【I 在宅療養者の栄養ケア推進事業】では②地域ケア関連団体への協力要請はとても重要な事業と考えます。【II 在宅訪問栄養食事指導に係る研修事業】③地域療養者に係る他職種との連携講座および⑤栄養ケア業務推進事業とともに、在宅療養・介護者のニーズをよく理解している他職種(ケアマネ、訪問看護師など)と積極的に意見交換ができる機会を設けていくことは、お互いの理解を深め、今後の在宅患者訪問栄養食事指導の必要性を周知し、実施件数を増やしていくためにも必要なことと思います。そのためには【II 拠点整備事業】や【I 在宅療養者の栄養ケア推進事業】③支部推進事業、⑤推進委員会を積極的に実施し、現在は支部間で認められている活動・取り組み状況の差を縮めていくことにもつながるのではないかと考えます。 2 事業計画はかなり密度の濃い内容だと思いますので、これらの事業を滞りなく実施するだけでも十分かと思います。
県歯科医師会 土屋信人 様	1:在宅療養において、広域の新潟県では地域格差が大きく本年度のICTやオンラインの活用は非常にニーズにマッチしていると考えられます。また地域間を超えた栄養管理を行う人材を補う新たな取り組みも評価できますが連携を図る職種増やしていく事が、良い結果につながると思います。 2:専門職への周知は進んでいるようですが一般の市民に対する広報活動を少ないように感じます。

評価委員	評価・検討課題
県薬剤師会 宮川哲也 様	地域の温度差の解消を図る事業が計画されている。栄養CSを軸に、各支部に対し目指すべき方向性や取組を拡散していただきたい。 支部により課題が異なる可能性がある。各支部の問題点・課題を抽出しても良いと思う。 訪問栄養指導可能な栄養士を登録制にし、人材を確保する事業は非常に評価でき、更なる推進を期待する。 当会でも、他職種との連携講座のような事業を実施しているが、依頼を待っていても要望がなかった。他職 種からの依頼がなく、進展しない場合は貴会から他職種へ依頼し、目標件数を達成する等も有用であると考える。
県看護協会 青柳玲子 様	 令和2年度モデル訪問指導依頼者アンケートより、回答数は26件と少ない結果ですが、在宅療養患者の訪問栄養指導のニーズはあり、関係機関からその役割や必要性は理解されていたと評価しています。一方で、在宅訪問栄養指導の機能や役割、具体的なサービス利用方法等の認識度が低いなど事業の周知の課題も明らかになっていました。これらの課題解決に向けた具体的な方策については、今回の事業内容から把握できませんでしたので、今後はさらに事業の理解を深め利用拡大につながるよう具体的かつ効果的な広報戦略の取組みを期待します。 在宅訪問栄養指導への取組みの地域間格差の課題については、OBや潜在管理栄養士の有効活用による人材確保や、拠点整備事業への本部や県栄養士会からの手厚いサポート体制を充実することにより、県内全域で事業の利用促進が図れるものと期待しています。在宅訪問栄養指導提供体制の充実に向けて、OBや潜在の管理栄養士等の登録制度の整備や再就職意向調査の実施等、人材確保対策の具体的かつ踏み込んだ検討についても進めていただきたいと思います。
県介護支援専門 員協会 笹川桂子 様	 1 2 オンラインでの研修会を実施され、参加者が増えていますので今後も参加しやすい開催方法や内容を検討頂きたいと思います。アンケートでは将来栄養指導を行いたいという回答の方が多いが登録栄養士の確保が出来ていない点が気になります。原因の究明に沿った働きかけをお願いします。 2 夫婦の高齢世帯や独居が多くなっている。フレイルなど低栄養が問題な高齢者も多く、配食弁当や栄養補助食品などの活用に頼るだけでなく、個別の食事指導という点では効果が得られるものと思われニーズに合っていると思われる。 2 特にありません。
県栄養士会 医療 近藤さつき 様	1 モデル事業は歯科医師会と協力して行う指導、新潟リハビリテーション病院の退院後の患者の在宅指導、 訪問看護ステーションや介護支援専門員との依頼による訪問など幅広いニーズに対応できている。 在宅指導の面だけでなく、支部の仕事の振り分けの軽減や施設の実態調査、食形態マップなど幅広い事業の 取り組みにより、在宅療養者・介護者、それにかかわる多職種とのかかわりだけでなく、栄養士会の会員に も必要な情報なども共通できる事業計画となっていると思う。
県栄養士会 福祉 平山景子 様	1、モデル・在宅訪問栄養食事指導の説明を聞きました。ニーズがあっても、在宅療養・介護者のもとにたどり着くまでが大変だと感じました。(制度上、仕方のないことだと思います。) 2、特になし。

評価項目:訪問栄養ケア推進事業が効果的にすめられているか?

- 1 栄養ケア推進活動の地域拡大について
- 2 人材育成について

∠ 入例 [育成について
評価委員	評価・検討課題
県医師会 井口清太郎 様	 ・フリーランスの栄養士しか活動できないというのは問題があるように思われる。今回、組織に所属する栄養士が活動できる素地を作っていくのは良いことだと思う。 ・地域間格差が大きくこの辺りを何とかできないかなと思う。特に長岡地域にいては特殊な事情があるのだろうか。一部の活動的な人に依存するような属人的な要素があるとするならば、これらを排して可能な限り組織として動けるような体制を目指すことが求められる。
有識者医師 小山諭 様	1 【I 在宅療養者の栄養ケア推進事業】④モデル・在宅訪問栄養食事指導はこれからなのでしょうが、【I 在宅療養者の栄養ケア推進事業】②地域ケア関連団体への協力要請および【II 在宅訪問栄養食事指導に係る研修事業】③地域療養者に係る他職種との連携講座を、今後、各支部が推し進めていくことが栄養ケア推進活動の地域拡大に結びついていくことと考えます。
	2 【Ⅲ 在宅訪問栄養食事指導に係る研修事業】では、①在宅栄養ケア研修会(web)はこれから予定されているようですし、②人材育成研修会(web)や④訪問指導症例検討会(web)など、COVID-19禍でのオンラインを取り入れた研修事業が既に一部実施、あるいは今後予定されているようです。③地域療養者に係る他職種との連携講座、⑤栄養ケア業務推進事業、⑥支部事業検討会及び研修会についてもこれからのようですが、これらを実施していくことが十分な人材育成に結びつくことと考えます。
県歯科医師会 土屋信人 様	1:昨年度は当会との事業については感謝申し上げます。今後とも地域での訪問栄養に関する連携を深めていきたいと考えており、特に離島などや山間部における地域在宅歯科医療連携室との連携について何卒よろしくお願い申し上げます。2:昨年同様に歯科関連の研修等については今後ともご相談ください。また他県の歯科医院での在宅医療における管理栄養士による栄養指導等の好事例の紹介も可能ですのでご検討ください。
県薬剤師会 宮川哲也 様	モデル訪問事業:リハ職と共同実施する計画となっているが、「低栄養への介入」と内容が漠然としていると感じる。目標、成果を明確化すべきと考える。在宅療養の高齢者は、フレイル・サルコペニアが問題になっていることが多い。県などと協力しながら実態把握と事業成果を将来的には検討してはどうかと考える。人材育成:研修会計画を見ると、目的を明確化して企画されていると思う。研修会の目的の設定にあたっては会員のニーズに合ったもの、貴会の課題となっていることに対して実施されるべきと考える。すでに実施されているのかもしれないが、目的が課題に対応しているか、再確認してはどうかと思う。また、研修会実施が即、会員の行動変容に至ることは難しいとも思うが、是非、研修会の効果(行動変容)を検証できると次年度以降につながると考える。
県看護協会 青柳玲子 様	1. 栄養ケア推進活動の地域拡大については、事業の周知啓発や利用促進、人材育成に向けて、年々事業内容が充実してきたことを評価します。しかしながら、事業の取組みの地域間格差や介護保険や医療保険による在宅訪問栄養指導につながりにくい課題は解決の糸口がつかめず事業の拡大を妨げています。今後は栄養ケア・ステーションと県栄養士会支部の活動との密接な連携の中で、これまでの在宅訪問栄養食事指導推進事業等を検証し、医師会をはじめ関係機関への理解と協力を得るための方策をさらに検討していくことが必要と考えます。取組みの地域間格差や人材確保等の課題にきめ細やかに対応できる体制の充実に向けて、栄養ケア・ステーション機能の一層の充実強化を期待します。
	2. 在宅訪問栄養指導は質の高い知識や技術の安定的な提供体制の整備が大きな課題となると思います。訪問 栄養指導の利用促進や定着のためにも、訪問栄養指導提供体制の地域間格差の解消や栄養士個人の指導内 容に知識や技術の差が生じないよう、人材育成、人材確保・定着対策の強化が重要と考えます。即、実践 に活かせる研修も重要ですが、今後は質の高い研修をタイムリーかつ継続して受講することができるよう、 e - ラーニングの活用や病院・施設実習の導入など教育研修体系の見直しを図り人材育成体制のさらなる充実を期待します。

評価委員	評価・検討課題
県介護支援専門 員協会 笹川桂子 様	1 これまでに他職種にむけ協力要請をされ、在宅訪問栄養指導として在宅支援を拡大してこられていると思います。 しかし、在宅での栄養管理の必要性はあるがまだまだ訪問指導についての周知は低いと感じます。必要な方がいたときにすぐにつながる事が出来るような社会資源として案内にとどまらず、実践例も含めた周知活動を期待します。各支部での取り組みの格差があるように感じます。支部を超えた横断的な運用ができる仕組みの検討も期待致します。
県栄養士会 医療近藤さつき 様	1 今回、モデル事業で新潟リハビリテーション病院の退院患者(在宅)に対するケースは、病院で退院時に 栄養指導しても対象者家族が実施できないで困っていることも多く、実際に自宅の状況を把握しながら在宅 で過ごすための安全な食形態や必要な栄養の摂取を多種職種とかかわりながら指導できることを立証できる ケースになることを期待したい。今後、」病院から在宅指導への継続指導できるケースとなりえると思う。 福祉施設の診療報酬改定にかかわる栄養ケアの取り組み状況調査まとめることにより、福祉施設の栄養ケア の取り組みで困っている点や進んでいる施設を把握することで遅れているところの支援ができるのではない かと思う。まずは実態調査を実施いることが重要と考える。 拠点を本部が中心に行うことで県内の状況を把握することができる。また、支部(長)の負担軽減になるの ではないか。 今回のモデル事業では、必ず医師に栄養指導を行うことを確認して実施・報告することにした。医師や多 職種に在宅栄養指導の必要性を理解してもらえる良い機会と思う。 2 人材育成の研修会を訪問登録者に限らず受講できるようになったことで参加人数の拡大ができている。た だし、インフォメーションが弱く気がする。web配信することにより自分の勤務時間(シフト体制)に合わ せて受講しやすくなったと思う。対面で研修ができるようになってもより多く参加してもらうためにハイブ リット方式の検討も必要と思う。
県栄養士会 福祉 平山景子 様	1,支部長の職域によって専門性が異なるせいか、支部長によって支部の活動に大きな差を感じる。(地域摂食嚥下調整食一覧を作成したが、その後約2年音沙汰なし。事業に組み込まれていなかったからか?)支部長に頼らない活動を進める必要があるのではないかと思いました。 人材育成研修参加者の訪問指導症例検討会への参加の検討をお願いします。

第2回 評価委員会 2023年1月26日

評価項目 I.拠点整備

コーデネーター配置

訪問栄養食事指導に係る研修会

- 1) 在宅栄養ケア総合研修会 2) 在宅栄養ケア人材育成研修会
- 3) 他職種連携講座 4) 訪問栄養指導症例検討会
- 5) 栄養ケア業務推進事業 6) 支部事業検討会・研修会

	=T/T	
評価委員	評価・検討課題	今後の改善点、必要内容等
県医師会 井口清太郎 様	・栄養ケア・ステーションについては、少しずつ活発化しようとしている様子がよく分かった。 魚沼市の方で栄養ケア・ステーション(よりそいーと)の広報に関わる事があった。地域に関わっていく様子が分かり良いと思った。 ・栄養士会として地域の他職種と繋がるための拠点作りというのは栄養ケア・ステーションの設置を目指す方向性と同じなのでしょうか。 ・訪問栄養指導が難しいと考えている若い栄養士もいるようだが、これらを指導していくことも重要では無いだろうか。	・報酬に繋がるような工夫などについて、成功例を 他の方にアピールするのは良いと思う。報酬に繋が るような工夫などについて、成功例を他の方にアピー ルするのは良いと思う。
	・オンラインを用いて活発に研修会を開催しており 素晴らしいと感じた。受講者数も多く、他職種も見 習わなければならない。 ・ただ栄養士の母集団はもっと多く、その数からも う少し研修会の参加者が増えても良いと思われる。 そのためには研修会の周知が更に必要ではないだろ うか。 ・認定ケア・ステーションの活躍は目覚ましい。こ れをもっと増やすような方策はないのだろうか。	・オンデマンドの教育素材は蓄積して使うこともできるので、ライブラリー化などはできないだろうか?会員限定(或いは登録してくれた場合のみ)で見られるようにすれば、会員を増やすことにも繋がるのでは無いだろうか。
有識者医師 小山諭 様	拠点整備では、これまで雇用契約が締結できたのは 上越支部・十日町支部であったが、今回、魚沼市部 が加わったことは一歩前進と考えます。栄養ケアス テーションへの登録数を増やしていくこともこれか らの発展につながると思います。	医師会との雇用契約が難航していることが継続した 課題かと思います。しかし、今回加わった魚沼のような認定CSが増えていくことが今後の期待であり、 地域包括ケアに即した方策なのかなとも思いました。 認定CSをバックアップしていく体制づくりが必要か と思います。また、地域包括ケアと絡めて栄養相談・ 指導の有用性をもっと世間にアピールしていくこと が必要かと思います。
	1)在宅栄養ケア総合研修会、2)人材育成研修会、3) 他職種連携講座・地域栄養ケア活動、4) 訪問栄養指 導症例検討会、については予定通り、またはほぼ予 定通りに開催されており順調に進んでいると思いま す。 5) 福祉施設栄養ケア業務の推進については、目標に 対して実施回数が少ない状況である。 6) 支部検討会・研修会についても、目標に対して実 施回数がかなり少ない状況である。	在宅栄養ケア研修会、人材育成研修会などの研修事業は大変充実した活動を継続しており、素晴らしいと思います。 福祉施設栄養ケア業務の推進、支部検討会・研修会については、回数が少なかった要因が昨日の評価委員会であまり説明されなかったように思いますが、その要因を明らかにして対策を考えるのが望ましいかと思います。

評価委員	評価・検討課題	今後の改善点、必要内容等
県歯科医師会 土屋信人 様	・栄養ケアステーションの発注が行われ始め今後の 展開が期待できる ・感染防止の対応からWEBを用いて効果的で幅広い 研修会が開催されている	・県民への周知が不足していると感じる・アンケートの効果を参考としてこれまで通り研修を行ってほしい・所属職域にとらわれずに多くの会員が研修会に参加して頂けるような企画をお願い致します。
県薬剤師会 宮川哲也 様	栄養ケア・ステーションの登録制度の周知により、 今後の栄養士の確保や、地域偏在等の課題抽出に期 待できると考えます	登録制度を活用し、様々な事業に参画してもらう のであれば、栄養士の質の確保も併せて重要になる と考えます。まずは数の確保に尽力するとのことで したが、スターターキットのようなものを活用する 等、質の確保も併せて実施いただいてはどうかと考 えます。
	各研修会では、目的が明確化され、習得すべき内容が網羅されていたと感じました。また、リアル配信のみではなくオンデマンド配信等の工夫により、多くの方に参加いただけたと評価します。 他職種連携講座・地域栄養ケア活動や支部検討会・研修会の一定回数開催できたことは評価できますが、内容については資料から読み取れませんでした。	他職種連携講座・地域栄養ケア活動については、 他職種向けの講座を実施したことで、訪問栄養食事 指導の理解が進んだ、あるいは依頼が増加した、等 の評価を検討されてはどうかと考えました。支部検 討会・研修会は支部によって開催回数に差があるよ うに見える。地域差が生じないよう、研修が十分に 実施できない地域があれば、県栄養士会が支援する、 エリアごとで合同研修を行う等の支援も検討されて はどうかと考えました。
県看護協会 青柳玲子 様	・栄養ケア・ステーションの栄養士登録制度の周知 啓発の取組みは、在宅での栄養ケアを担う人材の確保・定着の一助となる重要な事業であると思います。 今年度の登録促進への取組みを積極的に行ったことを評価します。今後は活動や登録者の地域間格差の解消に栄養ケア・ステーションの本部と支部との密接な連携を図り、どのようなサポート体制や戦略的な取組みを行っていくかが大きな課題となると思います。	・今後はさらに魅力ある栄養ケア事業の効果的な情報発信及び相談やアクセスしやすい環境や体制整備による登録促進への取組み、登録者の希望業務への効率的なマッチング体制の充実を期待します。
	・研修内容は充実し、参加しやすい研修環境等工夫されてきていると思います。地域栄養ケア・訪問栄養指導に係る研修事業は栄養士の人材育成プログラムやラダーに基づいた、領域別、療養者のニーズ別対応等、どのような形で系統づけられて実施されているのでしょうか。即実践で使える内容が多い印象ですが、地域のニーズや栄養士自身の課題に即したものか、実施された研修全体についての評価及び今後の方策についての報告があると今後の取組みの課題や方向性が明確になると考えます。	栄養ケアを推進するにあたり、多様化している地域のニーズに応えられる栄養士の質の向上を図り、役割の充実強化と活動の見える化を図ることが一層求められると思います。 地域のニーズに対応し、栄養士の人材育成プログラムやラダーに基づいた継続的に積み上げのできる研修体制の体系化への取組みについてもご検討願います。

評価委員	評価・検討課題	今後の改善点、必要内容等
県介護支援専門 員協会 笹川桂子 様	魚沼支部が今年度より医療機関との雇用契約が進 んだことは、一歩進んだと思われます。	難しい事なのかもしれませんが、認定ケア・ステーションが新潟県内で発展していくといいと思います。
	栄養指導業務の登録者数が増えたことは良い傾向だと思います。 研修事業に関しては、Web配信が定着し受講者、 視聴回数も増え積極的に取り組まれていましたし、 他職種連携の取り組みも勧められていたと思います。 支部での検討会や研修活動が計画どおりに進まない 要因はあるのでしょうか?	会議で、在宅訪問に関した内容にとらわれず参加 を広く進める取り組みが必要だったと感じていると 報告されていました。栄養士の方の置かれた状況は 様々と思いますが、アンケートなど実施して対象者 の目線での研修内容も検討が必要と思います。 また、他職種向けの研修を充実していただきたいと 思います。
県栄養士会 医療 様	本部が中心になって支部活動や認定栄養CSの活動をバックアップしているが、まだ把握できていない部分もあると思う。しかし、少しずつ整ってきていると思う在宅栄養ケア総合研修会は他県でどのように栄養ケアセンターが多職種とうまく連携がとれているかと栄養士側にとっては興味深い内容だと思うが実際に多職種の参加が少なかったことが非常に残念だった。宣伝不足なのか、それとも栄養士と組んでどのような効果があるのか、組む意味があるのか等と考えることもなくただ関心がなかったと判断するべきか。いつも栄養士が必要とされないのか、栄養士を必要と思っている職種の実態"というテーマで多職種に依頼し、全体でデスカッションすることも検討しても良いのではないか。令和3年の介護報酬改定に伴い、福祉施設の栄養業務が増えてきた。今回発表された施設は積極的な取り組みを行っていた。まだ、取り組めていない福祉施設もとても参考になる内容だったと思う。また、病院や施設での食形態一覧表の作成も各支部で拡大しているが、全施設の協力が得られていないところもある。任意での協力となると難しい部分である。	形態一覧表については今後、見直しや更新が必要なので、どのように管理していくか明確な仕様書づくりも合わせて作成したほうがよいと思う。 多職種の本部に依頼するだけではなく、今回、依頼のあった訪問看護やケアマネージャーに訪問依頼することも必要かと思う。
県栄養士会 福祉 平山景子 様	 2) 訪問栄養指導の事例を見ると症例が多岐にわたっており、「若い栄養士が敬遠する」理由の一つなのではないかと考えた。 様々な症例に対応できる管理栄養士を育てる為の研修会が必要だと思われる。 6) 支部活動方法を変更し、一部支部ではありますが4月から新制支部活動をスタートさせることで、今よ 	2) コロナ禍でWeb研修ではありましたが、約60名の参加者がいたことはとても評価できると思います。 今後の課題として、配信だけではなくグループワーク等も取り入れた、実践に応用できる内容の検討をお願いします。

評価事項

Ⅱ 在宅訪問栄養指導推進事業

- 1) 支部在宅担当者会議 2) 地域包括ケアシステム関連団体へ協力要請
- 3) 支部推進事業 4) モデル訪問栄養食事指導 5) 推進会議
- 6) 評価委員会

評価委員	- 評価・検討課題	今後の改善点、必要内容等
県医師会 井口清太郎 様	・食形態を見える化したものを魚沼市の医療機関で 拝見した。とても分かりやすく、他の医療職にとっ ても利用しやすい形となった。 ・地域を跨いだ支援が行われており、素晴らしいと 感じた。(魚沼→三条) ・訪問にこだわりすぎていたのかも…。	・ICTを用いた栄養指導などはどうか? ・栄養士会の活動の方向性が、保険を利用していく方向から、栄養ケア・ステーションへの登録を目指していくことにしたのは良かったのかも知れない。 ・質の担保の前に求めている研修会を開催する、ということは大事と思う。
有識者医師小山諭 様	1) 在宅事業担当者代表会議は、3月に第2回目開催予定とのことであり、目標通りと考えます。 2) 地域ケア関連団体協力要請については、回数が目標よりやや少なめで実施できていない支部もあると思います。 3) 支部・事業推進会議は、目標を大幅に超えており、積極的な活動がうかがえます。 4) モデル・訪問栄養食事指導は、目標を下回っているのが少し残念であるが、1件1件の指導状況は充実した内容であったことがうかがえました。 5) 栄養ケア推進委員会は、目標に近い回数開催され、また、内容も大変熱心に活動されていると考えます。 6) 評価委員会は、今回も含め予定通り2回開催されており、順調に進んでいると思います。	2) 地域ケア関連団体協力要請については、回数を増やす、実施されていない一部の地域でも開催するなどが必要と考えます。 4) モデル・訪問栄養指導は、件数を増やしていくことが望ましいと考えます。医療機関、施設はもとより、一般の方へも訪問栄養食事指導の存在やその有用性を周知(広報)するのが良いかと思います。 1) 在宅事業担当者代表会議、3) 支部・事業推進会議、5) 栄養ケア推進委員会、6) 評価委員会については計画通り進んでいると思いますので、特に意見はありません。
県歯科医師会 土屋信人 様	・会議、協議回答はこれまで通り行われている点は 大変表ができると考えられますまた、WEBを利用 することで効率がはかれる点も非常に良いと思わ れます ・県歯科医師会のモデル事業でICTの活用も行わ れ、新たな取り組みを評価する	 ・各支部でも協議が多くなっているが、支部活動は どのように反映されているのかを明確にしていく ようにご検討下さい ・モデル事業の件数を増やすかそれとも本事業とし て採算性を含めての検討をしていくのか方向性を 明確にしていかれてはいかがでしょうか
県薬剤師会 宮川哲也 様	・モデル・訪問栄養指導事業は残念ながら目標に達成できませんでしたが、他の事業は概ね良好に実施できたと考えます。	目標が達成できなかった事業について、その原因を分析することで、今後よりよい事業実施につながることに期待します。 例えば、栄養指導の実施につながらない要因が、対象者がいないことにあるのか、医療者側の認識が低いのか分析することで、周知方法(対象、ツール)が効率化できる、等。

評価委員	評価・検討課題	今後の改善点、必要内容等				
県看護協会 青柳玲子 様	・在宅訪問栄養指導推進事業全般に、地域拡大、関係機関との連携の拡がり、活動実績の伸び等が見られ、事業は定着してきていると思われます。 ・その中で在宅事業担当者代表会議や支部・事業推進会議など、エリア毎に参加メンバーも異なる会議が開催されていますが、それぞれの会議の目的や位置づけ、検討内容についての資料や報告はありません。開催回数の報告に加え、検討内容や評価についての報告をお願いします。そのことにより、地域や各事業の課題がより明確になり、その解決に向けて、今後の取組みとして何を強化すべきか等方向性が具体的になると考えます。	康づくり支援課の今後の方針の説明にもありましたが、訪問栄養指導に固執することなく、予防からケアの必要な方までと幅広い県民の方を対象にした継続性のある栄養ケアの体制を構築していく必要があると考えます。切れ目のない多様な支援からニーズも明確になるとともに栄養ケアへの期待も高まり、タイミングよく訪問栄養指導につながるのではないでしょうか。地域における栄養ケアのニーズの明確化を行い、課題の優先順位や取組みの実現可能性を踏まえた栄養ケア体制の構築を期待します。				
県介護支援専門 員協会 笹川桂子 様	モデル訪問栄養指導では、18件にとどまっていますが紹介理由から必要性が高い方の依頼が主であり内容の充実した実績が残せたことと思われます。栄養指導を円滑にするために主治医に栄養指導に対する意見確認やケアマネージャーへ事前に情報提供を依頼するなど連携もされていたと思います。 人材確保の点では、栄養ケア・ステーション活動への登録を推進するための周知活動により登録者数が増えたこと、他支部で活動できる仕組みづくりなど評価できます。支部間の格差を解消しながら地域に栄養士の専門性のある活動が還元できるものと考えます。	訪問栄養指導のニーズは高いと考えます。各地域での依頼につながらない原因を把握していく事と他職種へ向けた事業の周知をさらに高めていくことが必要だと思われます。				

評価委員	評価・検討課題	今後の改善点、必要内容等
県栄養士会 医療	- 計画どおりに進められている感じはする。事業内容	栄養ケア・ステーションに登録した会員だけではな
近藤さつき 様	もスリム化し負担を減らすところもある一方、モデ	く全会員に目的や仕事内容や事例発表など興味を
	ル訪問指導では、多職種の協力の下、主治医の顔が	持ってもらうような研修会の開催も必要である。
	見えてきた。実際、患者が主治医に報告することも	多方面には、ポスターや栄養ケア・ステーションに
	あり、「そんなことをしてるんだ」と訪問指導を認識	ついての説明など引き続き行って理解を深めて必要
	してくれたことは一歩前進とみるべきだと思う。し	がある。
	かし、栄養ケア・ステーションの認識度は低く、もっ	モデル訪問栄養指導を行った先を継続するための方
	とアピールが必要と思う。評価委員会で井口先生が	法も考えていく必要がある。
	話していたように病院やデイサービースにケア・ス	
	テーションのポスターを貼ってもらうことにより外	
	来や入院患者、多職種に目がとまり、指導が必要な	
	人が連絡くれるのではと期待する。そのためには病	
	院や施設の栄養士の理解や協力が必要となる。どの	
	ように協力してもらえるか検討しても良いと思う。	
	モデル訪問栄養指導で新潟リハビリテーション病院	
	連携が予定より少なかったことが残念だった。患者	
	から訪問を断られ、件数が増えなかった。患者や患	
	者家族は家に訪問されるのを嫌がるケースは多々あ	
	る。要介護でケアマネージャーや訪問看護、訪問歯	
	科など多職種が訪問している家庭は比較的受け入れ	
	がよいが、それでも食事はあるものを食べさせます、	
	大丈夫だという認識が根強く、在宅訪問指導の必要	
	性が解らない人が多い。	
	退院の際に食事の重要性について医師を含めた多職	
	種からアピールしてもらえるといいのではないか。	
県栄養士会 福祉	2) 支部によって活動回数に大きな差がある。	2)活動できていない支部については、本部のフォロー
平山景子 様	また、計画の半数しか行えていない。	が必要なのではないか。

その他 ご意見

評価委員	ご意見
県医師会 井口清太郎 様	いつもいろいろと活発に活動されている様子がよく分かり参考になります。またコロナ禍の中でSNSたICT を用いた対応にいち早く反応できたのは今更ながらに素晴らしいと感じる。今後、活動の幅が拡がることを 祈念しています。
有識者医師 小山諭 様	昨日の評価委員会の最後の方で、これまでの目標が訪問栄養食事指導にための雇用契約に重点をおいていたことについての反省が述べられておりました。しかし、新潟県栄養士会の活動はH24~H26年度まで3年連続で厚労省の栄養ケア活動支援整備事業に採択されており、とても素晴らしい活動をこれまでも行なってこられていると思います。また、訪問栄養食事指導にための雇用契約が必要な制度を作ったのは厚労省ですので、新潟県栄養士会の活動は当然の内容であったと思っております。ただ、雇用契約以外に認定CSの立ち上げなどの方向を目指していくのは今後の発展につながると思います。
県薬剤師会 宮川哲也 様	研修会受講者のアンケート調査で、訪問栄養指導の依頼が来ても、約7割の栄養士は対応ができない状況と のこと。栄養士会として課題、改善策等を検討されてはいかがかと思いました。

県看護協会 青柳玲子 様	・長期化するコロナの流行に加え、不安定な社会情勢、紛争に伴うエネルギー・食糧危機などによって、社会経済状況の悪化は続き、人びとの生活への脅威はより先鋭化し、その中で人びとの社会的格差の進行や孤立の深刻化が進行しています。孤立している高齢者、貧困層小児や女性などに対する栄養士としてのアプローチが求められると思います。地域の茶の間、高齢者食堂や子ども食堂等への積極的な取組みなど、社会や地域が抱えているこのような課題も視野に入れた活動の充実もご検討願います。
県栄養士会 医療 近藤さつき 様	栄養ケア・ステーションの登録や研修会、症例検討会などの申し込みを知らない会員が多くいる。コロナ禍で簡単にZoom講演を受けられる機会が増えてきた。こんな講演がありますと各メーカーからメールや郵便で届く。新潟県栄養士会もInstagramで情報を上げている。しかし、Instagramをしていることさえ知らない会員がいる。もっと会員がInstagramに参加して栄養士会の研修内容や活動を知ってもらいながらホームページにアクセスして研修会などに参加してほしい。

3. まとめ

(1) 結果

2022年度在宅医療(栄養)推進事業は、事業目標を「在宅療養者等における疾病の重症化予防,QOL維持・向上を図る」とし、地域の療養者に寄り添った効果的な訪問栄養食事指導等の取り組み及び、事業を担当する管理栄養士の研修会を計画し、栄養ケア提供の充実を目指した。

- ア. 新潟県栄養士会各支部において、管轄地域の医師会推進センターをはじめ、他団体と連携依頼及び栄養ケア活動の拠点の周知活動を実施した。
- イ、モデル訪問栄養指導は3種の連携方法により実施した。
 - ア) 新潟県歯科医師会連携:県内地域歯科連携室を事業窓口として、訪問歯科医、ケアマネージャー、医科主治医、県栄養士会と訪問栄養指導の調整を担当頂いた。訪問担当栄養士は、口腔、嚥下に問題を抱えた栄養問題のある在宅療養者に対して、歯科診療サイドからの適切な情報提供や指導をうけることができ、栄養食事指導の効果的実践ができた。
 - イ) 新潟リハビリテーション病院連携: 新潟リハビリテーション病院の入院歴のある自宅療養者を対象とし、 訪問リハ担当者が栄養問題のある療養者に対して、担当ケアマネージャーへの情報提供により栄養士会へ 患者紹介を頂き 訪問栄養指導を行った。
 - ウ) 訪問看護、訪問リハビリ、ケアマネージャーとの連携 訪問看護や訪問リハビリ、ケアマネージャーからのモデル訪問依頼で、件数が一番多かった。訪問看護 からは、在宅小児療養者の訪問栄養食事指導依頼があり、4回の訪問栄養指導後、新潟市歯科連携室の連 携として継続して2回の訪問栄養指導が行われた。
- ウ. 会員向け研修会を、Web配信により5回シリーズで行った。

本年度研修事業は、「指導記録」「摂食・嚥下」「他地域活動職との連携」をテーマとして、県栄養士会会員の地域栄養ケア提供のレベルアップを目的に全会員に参加呼びかけを行った。本研修会の参加が一部の会員にとどまらず、より多くの会員参加を呼びかけて管理栄養士の指導技術の資質向上寄与していきたい。

- エ. 在宅栄養ケア総合研修会は、新潟県栄養士会員及び 県内の地域ケアに係る多団体にも参加を呼びかけて Web配信で行った。講演は、金沢市栄養ケアシステムをテーマとした内容で、地域栄養ケア活動を管内医 師会、多団体の協力のもとで確実な歩みで、計画的にスッテプアップを実践しており大変に参考となる内容 であった。
- オ. 柏崎支部は、地域内の福祉施設、病院の提供食の食形態一覧表の作成を行った。
- (2) 今後の課題
- ア. 専門職種の評価委員の提言を真摯に受け止め、地域住民に対しての地域栄養ケア提供取り組みを継続していきたい。
- イ. 地域住民に近い距離での適切な継続的地域栄養ケアを実践する為、県栄養士会支部体制及び県栄養士会本部との連携体制整備を推進したい。
- ウ. 地域栄養ケア担当の管理栄養士の資質向上目的に、研修会の開催、情報提供、会員交流の場の設置運営を し、同職種連携、多職種連携、地域内連携をキーワードに有用なツールの作成・利用を推進していきたい。

4. おわりに

本年度は、国及び新潟県基金事業の在宅医療(栄養)推進事業として、10年目の取り組みとなりました。 県内10支部で事業を展開し、7支部では管轄の医師会(推進センター)と栄養指導契約の整備ができました。 この事業を通し、在宅医療に係る多職種と連携をいいただくことができました。

日本栄養士会は、地域包括ケアシステムに対応した栄養士・管理栄養士による地域への栄養ケアの取り組み体制整備、推進を目指しています。新潟県栄養士会は、2023年度より計画的な取り組みを予定しています。新潟県栄養士会の10支部体制の支部内地域活動の充実をはかりながら、新潟県栄養士会・栄養ケアステーションと連携し、各地域において、住民、行政、多団体から声かけが可能となる、「顔が見える栄養ケアの窓口」をめざしています。

県内に誕生した2つ認定栄養ケアステーションには、地域の栄養ケア活動を牽引していただき、支部間を超 えての活動を期待し、栄養士会会員への情報提供をお願いしたいと思います。

職場で栄養士業務に携わる際に、職場のおかれている地域状況が、担当する栄養士業務に短期、長期にわたり関連することから、地域に視線を向けた栄養士業務や地域内での同職種連携、業務に関連する他職種連携がますます重要になると思われます。住民及び療養者が生活を行う地域を一つの単位とした、地域包括ケアシステム推進に栄養ケアの視点から積極的に関わり、職場業務に生かしていただきたいと思います。

10年間の本事業の取り組みは、研修会やモデル訪問栄養指導を通して、療養者及び関連する多職種より、多くの情報や学びを得ることができ、今後の栄養ケアの地域活動に役立てることができると思います。組織体制を整備し、情報収集を適確に行い、有用な栄養士活動を示して多職種連携の推進及び、県民への広報活動を進めて地域が求めている栄養ケアの実績を目指します。

最後に、本事業推進にあたり、新潟県栄養士会会員はじめ、温かいご支援とご協力を賜りました多くの皆様 に心より御礼申し上がます。

2022年度 在宅医療(栄養)推進事業 委員会一同

2022 年度 在宅医療(栄養)推進事業 新潟県補助事業

第2 資料編

- 1. モデル訪問栄養指導(3症例)
- 2. 在宅栄養ケア総合研修会
- 3. 人材育成研修会
- 4. 認定栄養ケア・ステーション しなの薬局 よりそいーと魚沼

様式 6		訪問栄養食事指導報告書 1 R 4 年 11 月 15 日 発信	
	ご依頼者	居宅介護支援介護事業所様	
	初回のモデ	デル訪問栄養食事指導を、下記の通り実施しましたので報告いたします。	
		新潟県栄養士会 担当管理栄養士:新潟市支部	
ļ	患者氏名	新潟 - 5 様 □ 男 76 歳 訪問日 R 4 年 11 月 9 日 (初日)	□)
依頼内容		大でも簡単にバランスのとれた食事を作れ るようアドバイス、指導をしてもらいた い。	(d) (d)
		食欲: □ 有 ■ 無 調理担当者: 夫 食事療法への意欲: ■ 有 [」無
		食事摂取量の低下: □無 ■ 有 (^{5月食欲不振にてエンシュア処方} 現在は回復傾向) 家族の協力: ■ 有 □無	
主	観的情報	食事時間: ■ 規則的 □ 不規則 (朝食 7:30 昼食 12:00 夕食 18:00)
		食事で困っていること他: 作った料理を食べてくれない。	
		朝食	
		ご飯(茶碗に半分から1杯 ムラあり) デイサービス ご飯(茶碗に半分から1杯	ムラあり)
		納豆 (主食10割、副食8~10割) 惣菜(揚げ物が多い)	
		焼鮭 家では、幕の内弁当やかつ丼 煮物(朝の残り)	
		煮物 (油揚げ、大根、人参、ごぼう、里芋、竹輪) 牛丼、天丼など購入 鍋物風(白菜、きのこ、	
客	食事内容	間食: □ 無 ■ 有(種類・量・頻度 かりんとうなど(袋ごと)、果物(食事と一緒だと料理 い為。柿・バナナなど)気が向いた時に食べる。	を食べな)
観的		飲酒: ■ 無 □ 有(種類・量・頻度)
情報		飲料・水分等: 夫が気付いた時に飲んでもらう程度。 水やお茶、コーヒー、ジュース類など。 健康食品の利用: ■ 無 □ 有()
114		推定栄養摂取量 : エネルギー 1200 kcal 蛋白質 44.0 g 食塩 5.	0 g
		充足率 : " 80 % " 88 % " 83	%
	白人士工训	身長 150 cm BW 40.8 kg BMI 18.1 kg/㎡	
	身体計測	上腕周囲長 21 cm 下腿周囲長 24 cm 握力 12 kg	
	その他	MNA-SF 8 p 喫煙: ■ 無 □ 有(本/日) 脳梗塞後遺症、失語症のため、ご本人の意向や嗜好等の聞き取りは困難。発症前から野菜は好まず、肉や濃い味付けを好んでいた。 家の事はすべて妻が行っていたが、病気を機に夫が家事全般を懸命にこなしている。 (介護者の夫も脳梗塞既往あり)	
		□ 栄養バランス良好 ■ 栄養バランス不良 □ 欠食 ■ 食事量の不足 □ 主食量の不	
è	 	□ エネルギー摂取不足 □ エネルギー摂取過剰 □ たんぱく質摂取不足 □ 食塩摂取過 □ 脂質摂取不足 □ 糖質摂取過剰 ■ 水分摂取不足 □ アルコール	
	問題点	主食(ご飯)、主菜(焼き魚、納豆、惣菜の揚げ物)、副菜(煮物、鍋物)を用意しているが、摂取量にる。特に野菜が嫌いなため野菜の摂取不足があり栄養バランスに偏りがある。また、夫の促しがないと自ら水分を摂ろうとしないため、水分摂取は不足傾向になっている。	ムラがあ
		短期目標: 栄養バランスを考慮した食事が摂れるようになる。 短期目標: 定期的に水分を補給する。	
栄養	養ケア目標	長期目標: 食事摂取量の安定と体重増加を目指す。(体重 1.0kg/1カ月増) 適度な水分を摂り脱水を予防する。	
		・市販品を利用し料理に変化をもたせる。・野菜ジュースを利用(再チャレンジ)	
Ė	栄養計画	・食事量が少ない時、ジュース類は控えエンシュアで補う。 ・水分は時間を決めて飲むように声をかけ促	していく。
		・使用する食器や盛り付けを工夫する。・量を決めて水分摂取量を把握する。	
目	標栄養量	エネルギー 1500 kcal・ たんぱく質 50 g・ 食塩 6 g 未満 (エネルギー 標準体重当たり30kcal、蛋白質 標準体重×1g、脳梗塞既往、心疾患あり塩分6g未満)	
		1	

ŧ	羕式7	訪問栄養	食事指導	報告	書2					R 4	年	1月	30	日	発信	
	ご依頼	者 居宅介護	支援介護事	業所	様											
	モデル訪問栄養食事指導を実施しましたので下記の通りご報告いたします。															
								潟県:	栄養士	会 担当管	理策	養士	新潟	市支	部	
患	者氏名	新潟 一	5		様	□男	/h	歳			MN	A-SF	最終訂	方問時		р
訪	問指導日	R 4年 11月	23 日(2 回目)	R	年	月	日(回目)	R	年	月	日(回)
主律	観的情報	買い物で買うものは ジュースは買ってい かったりと変わらな 飲んでいない。1日で ようおいておくが、 ごとおいたまま)	ない。食べ方 い。エンシュ で昼を一番食べ	は食べたり アまで気か る。水分	食べな 回らず は飲む											
		BW 41.2 kg	- BMI	18. 3	kg/m²	BW		kg •	BMI	kg/m²	BW		kg •	BMI		kg/m²
自	·体計測	AC 21 cm	- CC	24. 0	cm	AC		cm -	CC	cm	AC		cm -	CC		cm
	査デー	握力 12 kg				握力		kg			握力		kg			
	タ他	体重 2/16 43.6kg-	→10/5 40.5kg	g→11/15	40. 8kg											
		HbA1c 7.2%(21.11月) →7. 3%(22. 2)	€) →6. 5%(22.7月)											
_	朝食	ご飯(軽く1膳 食べ 焼魚(1切)、ゆで 煮物(残す)、果物	卵(1個)又		P)											
食事内容	昼食	牛丼(吉野家) (お昼は買ってきた 安定して食べている		ため摂取᠘	うなく											
Ď.	夕食	ご飯(軽く1膳 食べ 焼魚(1切)や惣菜 物(残す)、果物((揚げ物)	時あり)	煮											
間	食·飲料	豆好み(1袋240ka	al)													
- :	飲酒等	ブラックコーヒー	-、白湯、乳	製品												
栄	養摂取量			(充足率)	(充足率)			(充足率)							
ェ	ネルギー	1200~1500	kcal (80	~ 100	_%)			kcal	(%)			kcal			
た	んぱく質	45∼ 55	g (90	~ 110	_%)			g	(%)			g			
	食塩	5. 0 ~ 7. 0	g (83	~ 116	_%)			g	(%)			g			
栄養	養バランス	良 ■ 不可・買い物に変化ない。	(~ mz ++ \\)	良良	! 🔲 不	可 ()		夏 🗌 不	可 ()
栄	:養評価	・ 負い物に変化ない。 サラダの購入なく、・ ・ 食事不足=エンシ ・ 水分は促しても摂	食事状況変化	なし。 がらない。												
		ポイントまとめ見や	すく資料を作り	成し再度こ	説明。											
栄養計画		・市販品を利用しま ・食事量が少ないに (間食は控える) ・野菜ジュースを ・水分は時間と量:	時はエンシュ 利用	アで補う	•											
次	回予定日	12 月	2 日					月	日							
*	終了時の	の総合的な評価		間内のク			護度:			1 🗆 2	要介護	€ □ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
	:養ケア 目標の 評価	短期日標 (定	養バランス 期的に水分 事摂取量の 毎ななか	を補給 安定と	する 体重増	加を目	指す	ように	なる				達成達成		未達成	
プ	ロヤス証	旭	度な水分を	技り脱	小を予	I) সূপ বি	ν .					.				
12 上 入	プロセス評価と今後の課題 2月2日、3回目の訪問栄養指導予定でしたが、ベットから転落し受傷、市民病院へ入院。 上腕骨骨折、右大腿骨転子部骨折により手術。その後リハビリ目的で新潟リハビリテーション病院へ転院。 入院中、胆管炎を発症しADLの低下があり在宅生活困難。今後はロングショートを利用し老健の方向。 訪問栄養指導終了となる。															

様⋾	t6	訪問栄養食事指導報告書 1	R	4 年	11 月		1日	発信	
	ご依頼者	訪問看護ステーション 様							
	初回のモデ	デル訪問栄養食事指導を、下記の通り実施しましたの	りで報	告いたし	、ます。				
		新潟県栄養士会	担当	管理栄養	士:新	爲市支 [·]	邹		
j	患者氏名	新潟 一 3 様 □ 男 5 歳 訪問!	3	R 4	年 10	月 1	5 日(初回))
依頼内容		自宅で作る食事で肉・魚系の摂取が進まない。ざらざらした感じが多いと残す。病院で作られるような滑らか食を作りたいので調理実習を依頼。	項	エネルギ	_	1200	kcal	食塩	g
		食欲:□ 有 ■ 無 調理担当者: 母・祖	母	食事療法	への意欲	:	□有	= 1	無
_	· #B 65 k를 추진	食事摂取量の低下: ■無 □有(前	から)	家族の協	力:	■ 有	ī 🗆	無	
±	:観的情報	食事時間: ■ 規則的 □ 不規則 (朝食 7:	30	昼食 12	:	夕食 1	7 : 50)	
		食事で困っていること他: ブレンダーかけた食事がさ 栄養剤が半分くらいしか飲				押し出し	(食べなし	ر _۱ °	
		朝食 おかゆ(卵としらす入) 120g~130g おでん(大根、昆布、人参、がんも) 100g ヨーグルト 70g×1ヶ 屋食 おかゆ 120g~130g レトルト(キューピー・紅間食 パナナ1/2本+林檎1/4個	鮭と野芽	ξ)	夕食 おかゆ(『 煮物 ラコール1		す入) 12	0g~130g	
客	食事内容	間食: □ 無 ■ 有(種類・量・頻度 果物、プ	リン		l)
観的		飲酒: ■ 無 □ 有(種類・量・頻度)
情報		飲料・水分等: コップ 杯/日 健康食品(の利用	: ■	無	□ 有	ī ()
∓IX		推定栄養摂取量:エネルギー 900 kal たんに	ぱく質	40	g	食塩	3. 5	g	
		充足率 : " 75 % "		89	%	<i>"</i>	88	%	
	身体計測	身長 95 cm BW 95 kg カウブ指数 14.3	kg/	m ²					
	分本計測	上腕周囲長 12 cm 下腿周囲長 14 cm	1	握力		kg 拃	縮もあり)測定不	能
	その他	MNA-SF p 喫煙: ■ 無 □ 有	.(本/日)					
		□ 栄養バランス良好 □ 栄養バランス不良 □ 欠	食				主食量	の不足	
		■ エネルギー摂取不足 □ エネルギー摂取過剰 □ た	んぱく	質摂取不足	Ē		食塩摂	取過剰	
5	栄養評価	□ 脂質摂取不足 □ 糖質摂取過剰 □ 水	分摂取	不足			アルコ・	ール摂取	過剰
問題点		・患者本人の意思表示が難しいこと。 ・咽頭内に唾液の残留があり、常にゴロゴロとしている。ム・ ・ムセながら喫食している。	セて唾	液を吐きだ	している	0			
		短期目標: 患者の望む食形態(滑らか食)作る。							
栄養	養ケア目標	長期目標: 食事摂取量を増やし、体重の増加を目指	す。						
栄養計画		①食事内容や食事量の確認を行う。 ②栄養補助食品の摂取量および水分摂取方法を確認し、 ③家族に調理実習を実施し、患者の望む食形態の作りた			雀保する。	,			
E	標栄養量	エネルギー 1200 kcal · たんぱく質 4	5	g · 食	塩	4	g		

様式7 訪問栄養食事指導報告書2 4年 12 月 5 日 発信 ご依頼者 訪問看護ステーション 様 モデル訪問栄養食事指導を実施しましたので下記の通りご報告いたします。 新潟県栄養士会 担当管理栄養士:新潟市支部 □男 最終訪問時 患者氏名 新潟 様 5 MNA-SF ■女 訪問指導日 R 4年 10月 15日(1 同日 R 4年 11月 5日(2回目) R 4年 12月 3日(回) 好きじゃないものはべろ(舌)で押し出 11月8. 9日検査入院。11月17日~21日市 民病院に入院。2日間欠食、輸液管理。そ の後ミキサー粥、ペースト食。ミキサー 粥は食べられなかった。12月2日からデイ 週1回、ロンディーネの杜へデイサービス 回回、ロンディーイのはヘアイソーと人 に出かけている。デイサービスでは毎 回、全量摂取出来ている。 ヨーグルトの摂取の観察を行った。覚醒 が悪いためか常にか解らないがムセなが ら食べてる。姿勢が90度になっているが して食べない。 肉とか魚は滑らかじゃないので食べない 図とか無は滑らかしゃないので食べない。 ことが多い。唾液が飲み込めないので常 にゴロゴロしているが、むせてから吐き 出している。水分はシリンジや哺乳瓶を 使用する。現在は水分にとろみをつけて いないが、はまぐみ小児療育センターの ジェンター・ の後ミキザー粥、ヘースト度。ミキサー 粥は食べられなかった。12月2日からデイ サービス開始した。退院後、酸素飽和度、 93%以下になったらネブライザー式酸素吸 入器を毎日、使用することになった。そ のおかげで、ゼイゼイ音が少なくなった。 まがまるよ 主観的情報 嚥下も弱い気がする。(姿勢の調節が必要かも。) BW 12.3 kg ・ ^{カウプ} 14.3 kg/m³ BW 12.3 kg ・ ^{カウブ} 14.3 kg/㎡ BW 11.3 kg ・ ^{カウブ} 12.5 kg/m³ 身体計測 14 cm 14 cm AC: 12 cm • CC AC 12 cm • CC AC 12.5 cm • CC 14 cm 検査データ kg (計測出来ない) 握力 握力 kg 計測出来ない 握力 kg 他 体重は退院時(11/17)のもの おかゆ(卵としらす入)120g~130g 肉じゃが(肉、じゃがいも、にんじん、 たまねぎ)100g クリーミィヨーグルト 75g おかゆ(卵としらす入)120g~130g おでん(大根、昆布、人参、がんも) おかゆ (卵としらす入) 120g~130g がなく卵としらす人/ 12% ダイコンと挽肉のそぼろ煮 あんかけ煮1/3量 クリーミィヨーグルト 75g 朝食 おこ. 100g ヨーグルト60g おかゆ(卵としらす入)120g~130g レトルト(キューピー、かまなくてよ い)1袋 ロンディーネの杜(障害福祉施/週1回) 親子丼 とうふ ル・レクチェ ロンディーネの杜(障害福祉施/週1回) 焼きそば ポテトサラダ バナナ 昼食 容 おかゆ(卵としらす入)120g~130g おかん(大根、昆布、人参、がんも) おかゆ (卵としらす入) 120g~130g 中華丼の具 (豚肉、白菜、人参、筍、う おかゆ (卵としらす入) 120g~130g 夕食 レトルト 1P たまこプリン95g 100g ずら卵、しめじ) ラコール 間食·飲料 ラコール 200cc/200kcal バナナ 1/2本 食事時 イノラス(187.5ml/300kcal) 1P バナナ1/2本と林檎1/4個 ラコール1P 食事時間20~30分 食事時間20~30分 食事時間 20~30分 飲酒等 ___ 栄養摂取量 (充足率) (充足率) (充足率) (75 %) 1240 900 (103 %) 1200 (100 %) エネルギ・ kcal kcal kcal 40 (89 %) (103 %) (120 %) 54 1 たんぱく質 46 6 g g g (88 %) 3.5 (80 %) 49 (122 %) 食塩 3 2 栄養バランス □良 ■不可 () □良 ■不可(□良 ■不可() □艮 ■ 个 回 () ①②週1回のデイサービス。デイサービス では全量摂取できているためこの日は栄養 養摂取量は充足されている。 形態は滑き が食べている。 ラコールからイノラス (りんご、いちご) に変更してもらった。下頼とっている。 会様子、水分は、だからでを飲んでいる。 水やお茶はあまり飲まない。 水分は哺乳 がいっぱ 粥に卵など入れたり、プリンやヨーグルト、エンシュア・Hを摂取することでたんぱく質の摂取は充足されているが、全体 の食事量が少ないためエネルギー不足となっている。 本人の好みの滑らかな食事作りがポイン トとなる。現在、ハンドミキサーを使用 しているが、ミルの方がより滑らかにな ると指導した。また、水分はとろみをつ けてないため中間のとろみをつけるよう に説明した。 炒め物をハントミキサーで描ってもらったが繊維が振ったままの状態になったっした。母「いつもこないなっなって食べないです。」夕食の塩鮭とほうれん草のソティーをミルで擂ってした。「こんなにトロトロになるんですった。「こんなにトロトロになるんですった。 た説明した。 ラコールは半分くらいしか飲めないため 他の栄養剤はないか質問されたのでイノ ラスについて説明し、担当医に処方して もらえないかと相談してもらうことに での練習も行っている。哺乳瓶の乳首は 吸えないため、先を少し切って飲ませて ・ 0。 体重は退院時計測だったため減量してい るが、その後食事摂取量は増加してい える。」と書んでいた。ミルの購入予定。 次回、予約日にイノラスを処方してもら えたか確認する予定。 る。舞踏病のため活動量が多く、カロリー設定はもう少し高い方がいいと思 栄養評価 (3) ミルを購入してミキサー食を提供いことでいた。 (3) 食事角度を70度にしてゼリーと飲水の確認を行った。前回90度で食べさせていたが、舌が食べ物を送り込角度を変えた。70度で頭の下に薄い枕を敷いて食べさせた。ゼリーはスライスカで丸飲みみする。飲水は練習用のカツなにりと母、から「もっとたしばく質をとったほう質がいいか」と質問あり、必要た人ばく質量は摂取出来ているのでやは大いといいか」と質問あり、必要た人は気量は摂取量を増やしカロリーアップに心がけるほうがよいと説明した。 ③ミルを購入してミキサー食を提供でき と説明した。 (3回目) (1回目、2回目) (3回目) ①食事内容や食事量の確認を行う。 ②栄養補助食品の摂取量および水分摂取 方法を確認し、必要栄養量を確保する。 ③創理指導後必食形態の確認。 ④食事姿勢の確認。60度~70度。 (1回日、2回日) ①食事内容や食事量の確認を行う。 ②栄養補助食品の摂取量および水分摂取 方法を確認し、必要栄養量を確保する。 ③家族に調理実習を実施し、患者の望む 食形態の作り方を指導する。 (刊回日/ ①食事内容や食事量の確認を行う。 ②栄養補助食品の摂取量および水分摂取 方法を確認し、必要栄養量を確保する。 栄養計画 R5.2月初旬 次回予定日 *終了時の総合的な評価 ■ 期間内の入院有 介護度: 要支援 🗆 1 🗆 2 要介護 🗆 1 🗆 2 🗆 3 🗆 4 🗆 5 栄養ケア 短期目標 (本人の好む食形態(滑らか食)を作り、摂取量を増やす。 ■ 達成 □ 未達成) ■ 未達成 長期目標(食事摂取量を増やし、体重増加を目指す。) □ 達成 評価 プロセス評価と今後の課題

様コ	t 6	訪問栄養食事指導報告書 1 R 4 年 12 月 12 日 発信
	ご依頼者	居宅介護支援介護事業所様
	初回のモデ	[・] ル訪問栄養食事指導を、下記の通り実施しましたので報告いたします。
		新潟県栄養士会 担当管理栄養士:新潟市支部
患者氏名 依頼内容		新潟-8 様 □ 男 ■ 女 訪問日
		昨年右大腿骨ひびの手術で入院した際、腎機能低下のため食事指導を受けたがどのくらい食べてよいかわからず困っているとお話があった。
		食欲: ■ 有 □ 無 調理担当者: 本人 食事療法への意欲: ■ 有 □ 無
		食事摂取量の低下: □無 ■ 有(1年 前から) 家族の協力: ■ 有 □無
主	観的情報	食事時間: ■ 規則的 □ 不規則 (朝食 7:20 昼食 12:00 夕食 18:00)
		食事で困っていること他: 退院後、食べ物が心配で食事量が減ってやせてきた。
		朝食
		ごはん120g みそ汁 サンドイッチ3組 ごはん120g
		目玉焼きか塩鮭1/2切 又はのりまき 魚か肉45gくらい
		温野菜(舞茸キャベツパプリカ) 又は菓子パン1個 野菜の煮物や煮びたし
		かんたん酢をかける + 番茶
客	食事内容	間食: ■ 無 □ 有(種類・量・頻度)
観的		飲酒: ■ 無 □ 有(種類・量・頻度)
情報		飲料・水分等: コップ 6杯/日 健康食品の利用: □ 無 □ 有()
TIA		推定栄養摂取量:エネルギー 1200 kcal たんぱく質 38 g 食塩 7 g
		充足率 : " 86 % " 95 % " 116 %
	身体計測	身長 144 cm BW 43 kg BMI kg/m²
	为仲司从	上腕周囲長 21.7 cm 下腿周囲長 27.8 cm 握力 15.7 kg
	その他	MNA-SF 9 p 喫煙: ■ 無 □ 有(本/日) 9/30 TP7.5, Cr1.58, eGFR24.4, BUN34, K4.4, Na141, TC165, LDL-C89, Hb9.8, Ht31.3, HbA1c5.6
		□ 栄養バランス良好 □ 栄養バランス不良 □ 欠食 □ 食事量の不足 □ 主食量の不足
<u>.</u>	¥ = 1. / - .	■ エネルギー摂取不足 □ エネルギー摂取過剰 □ たんぱく質摂取不足 □ 食塩摂取過剰
		□ 脂質摂取不足 □ 糖質摂取過剰 □ 水分摂取不足 □ アルコール摂取過剰
問題点		全体に脂肪と昼の食事量が少なくエネルギーが目標より%と少ない、体重も減少傾向とのこと。R3年に入院時腎臓病 食が提供され退院時に栄養指導を受け資料も保管されているが、理解不足で食事摂取量が減り、エネルギー不足状態 と考えられる。
栄養ケア目標		短期目標: 指示栄養量に合わせた食事の目安量を正しく理解する。
		長期目標: 指示栄養量に対してたんぱく質、カリウム、食塩を可能な範囲で控えつつ、活動量 に合わせたエネルギーを確保した食事ができ体重を維持できる。
Ė	栄養計画	食べてよい食事量、料理について本人の疑問に答えながら1日の目安量が理解できるように説明する。 昼食は菓子パンだけの時、ヨーグルトや野菜を組み合わせる。
目	標栄養量	ェネルギー 1400 kg ・ たんぱく質 40 g ・ 食塩 6 g カリウム制限有の指示であるが検査値落ち着いており、今より極端に増やさないようにする。
		ン / / Minute C G C G C G C G C G C G C G C G C G C

1	様式7	訪問栄養食事指導報告書名	2	<u>R</u> 5	5年 1 月	17 日 多	<u> </u>	
	ご依頼	皆 居宅介護支援介護	養事業所	様				
	モデル語	方問栄養食事指導を実施しまし <u>っ</u>						
				養士会 担当管	管理栄養士 「	: 新潟市支部 T	3	
患	君氏名	新潟-8 様	□ 男 ■ 女		MNA-SF	最終訪問時	р	
訪	問指導日	R 4年 12月 23日 (2回目)	R 5年 1月 17日	(3回目)	R 年	月 日(回)	
主	観的情報	膝は痛くなくなりました。野菜にオリーブ油をかけたりしています。粒あんとこしあんとどちらが良いでしょうか。芋は食べてよいでしょうか。	芋はカリウム高いけどりかったので、お正月にのよかったです。肉や魚のました。目安と同じくらよいでしょうか。	Dっぺも食べれて D重さを計ってみ				
		BW 43 kg • BMI 20.7 kg/m ²	BW 43.7 kg • B	BMI 21.1 kg/m	า์ BW	kg • BMI	kg/m^2	
	体計測	AC cm - CC cm	AC 21.8 cm • 0	CC 27.8 cm	AC	cm · CC	cm	
検	査データ 他	握力 14.1 kg	握力 16.5 kg		握力	kg		
			体んでいたゲートボール	レ再開(約週1回)				
食恵	朝食	ごはん120、味噌汁(味噌6g?)、目玉焼き醤油数滴、茹で野菜(キャベツ人参ブロッコーなど)オリーブ油、胡麻ドレ、かんたん酢など、味のリ1/2袋	同左 (ご飯は120~150					
事内容	昼食	ごはん120、レトルトカレー1/3袋、福神 漬け	パン60gジャムマーガリン、ヨ 茶(砂糖3g)、りんご1					
	夕食	ごはん120、タラ汁(タラ、豆腐、ネギ) 切昆布煮、ひたし	昨夜)ごはん120~150、 のみお椀半分、シシャモ3本					
	食·飲料 ·飲酒等	たまにヤクルト、煎餅	たまにヤクルト、煎餅、	水分コップ6杯				
栄	養摂取量	脂質13~24g (充足率)	脂質20~30g	(充足率)		(3	充足率)	
=	エネルギー	1000~1200 kcal (79 %)	1100~1300 kcal	(86 %)		kcal (%)	
1	とんぱく質	35~42 g (96 %)	40∼45 g	(106 %)		g (%)	
	食塩	5∼7 g (100 %)	5∼7 g	(100 %)		g (%)	
栄	養バランス	■良□不可()	■良□不可()	良。不	河 ()	
Ŕ	关養評 価	■ IAIA*-摂取不足 □ 体重が変わりないが、食事記録よりIAIA*-充足率が低めで知識不足によるエネルギー摂取不足傾向。食事記録をつけ、質問事項も記載でき意欲みられる。塩分チェックは良好、たんぱく質良好	■ Iネルドー摂取不足 □ ご飯は150gの時もあり 摂取量は増え体重もりる。食べてよいもの目 摂取量も改善している。指示量に対してにまだ不足。	- り脂質も使用し 少し増加してい 目安を理解でき ると考えられ				
Ä	挨養計画	・油脂類(油、ドレ、揚げ物等)毎食使用する ・肉魚卵など食べてよい量を確認した ・煮物の時は煮物以外の料理組み合わせる。(記録で良かった日を確認した ・いきいきパンプレットを参考まで紹介 ・芋類味噌汁程度可、小豆あん正月可	食事の目安について確認 ・油脂類(油、ドレ、排 用する ・肉魚卵など食べてよし、 ・煮物の時は煮物以外の る。 ・芋類味噌汁程度可、自	易げ物等)毎食使い量を確認したの料理組み合わせ				
	:回予定日	1月 17 日	月	日	1			
*	終了時の	総合的な評価 □ 期間内の入院有	介護度: 要支援	1 □ 2	要介護 🗆 1		□ 4 □ 5	
	栄養ケア 目標の 評価	短期目標 (指示栄養量に合わせた食 「基期日標 (指示栄養量に対してたんぱく質、カリ	ウム、食塩を可能な範囲で控えつ		エラルギー・		未達成 	
. ^		1次 70 1 1	: 3.)	達成 口 タ	未達成 ————	
初がきが	プロセス評価と今後の課題 切回訪問時、エネルギー摂取量が指示に対し7~8割程度。退院時に受けた食事療法について資料など読み食事作りをされていた が、理解が不十分であるため、たんぱく質は抑えられていたがエネルギー摂取不足量であったと思われる。食事への不安も大きかった。食べてよい食品、制限内で食べてよい目安量、組み合わせを中心に説明した。内容は理解され、食事に活かすこと ができ、適正に食事量も増加し食事の不安が軽くなった様子が見受けられた。今後は膝のけがの回復により活動量の増加が考 えられ、食事量を減らざず体重維持に留意いただく。							

2. 在宅栄養ケア総合研修会

2022年度在宅医療(栄養)推進事業 (新潟県補助事業)在宅栄養ケア研究会

~地域で安心してくらしていくための 食・栄養からのアプローチ~

金沢栄養ケアセンター の取り組み

石川県栄養士会 いしかわ栄養ケア・ステーション 金沢栄養ケアセンター 食事の教室くでん

管理栄養士 櫻井千佳

石川県栄養士会の取り組み

2018年4月 金沢市訪問型C 石川県栄養士会が受託 同4月 石川県栄養士会に在宅医療検討部会 立ち上げ(運営費は石川県高度 専門医療人材養成支援事業公募→

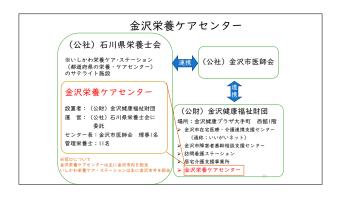
2018年から毎年採択中)

2018年度 在宅療養者支援のための多職種連携と 地域包括システムを支える 栄養ケア・ステーションの構築

(厚労省栄養ケア活動支援整備事業) ①

管理栄養士が見える拠点の場

の設立を目指す



金沢栄養ケアセンター事業計画

- ・診療報酬・介護報酬にかかる業務
- 1. 外来栄養食事指導2
- 在宅患者訪問栄養食事指導2
 居宅療養管理指導Ⅱ
- 4. 栄養管理体制加算など
- ・地域包括ケアシステムにかかる事業関連業務(地域ケア会議)
- ・ 健診後の指導
- 金沢市・財団からの委託事業
- 管理栄養士の人材育成事業

・医療職として対応できる ・ハイリスクアプローチに 対応できる



運営状況と波及効果

金沢市内15医療機関と連携

受託事業金沢市 総合事業訪問型サービスC

栄養改善出前講座(ディサービスに講話) 特定保健指導への出務(特定健診結果相談会)

研究協力 金沢大学 糖尿病性腎臓病重症化予防プログラム (実証研究)

波及効果 金沢市近郊市町村より依頼

自立支援型地域ケア会議助言 羽咋市・白山市・かほく市・七尾市・野々市市・小松市

特定保健指導・外来・訪問栄養指導等実施

小松市・白山市・野々市市・金沢市・津幡町・かほく市・羽咋市 ・七尾市

金沢栄養ケアセンターでの研修会

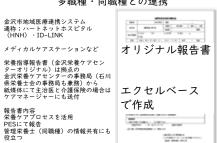


多職種・同職種との連携

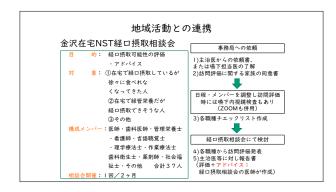
金沢市地域医療連携システム 通称;ハートネットホスピタル (HNH)・ID-LINK

メディカルケアステーションなど

報告書内容 栄養ケアプロセスを活用 PESにて報告 管理栄養士(同職種)の情報共有にも 役立つ



2. 在宅栄養ケア総合研修会

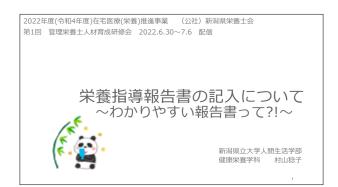




食べることの大切さ

食べることによって摂取できる栄養は自分でできるケアの一つです。食事は生命を保ち、生活を豊かにするために必要なものです。
「体によいものを」「栄養のバランスを」と考えて「がんばって食べよう」と思うあまり、食べることが苦痛になり本来の楽しいはずの食事がつらいものになってしまいます。体調が悪い時は「食べられるものから食べ、食べたいものを好きな時にたべる」ことを意識して美味しく楽しく食べることが大切です。患者さん自身、ご家族や周囲の方も無理をしない、させない気持ちで食事をすることが大切です。

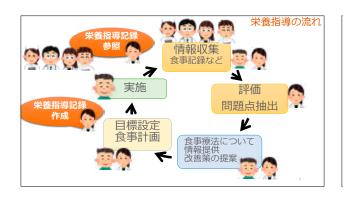
第1回 管理栄養士人材育成研修会



本日の内容

- ◆はじめに
- ◆診療録システムについて
- ◆SOAP形式について
- ◆実際の栄養指導報告書から・・・
- ◆わかりやすく「書く」には?
- ◆まとめ





栄養管理の記録や報告書は なんのために作成する?

チーム医療の中では重要なコミュニケーションツール。 チームメンバー以外の関連するスタッフとの情報共有。 担当者が交代しても継続的な支援の実施。 医師の指示により実施した行為は、医師に報告が必要。 診療報酬・介護報酬の基準に沿って実施した証明。法的証拠。

- ・・・栄養管理していることの証明
- ・・・内容を振り返りさらに質の向上
- ・・・すべては、対象者へのよりよい支援のため



栄養指導報告書に求められる条件は?

様式に合わせた書き方。

簡潔でわかりやすい。 一貫性がある。

伝えたいこと、共有したいことがわかる。

忙しい中でも、読んでもらえる。

読みやすい。

・・・・読む人を意識する!



本日の内容

- ◆はじめに
- ◆診療録システムについて
- ◆SOAP形式について
- ◆実際の栄養指導報告書から・・・
- ◆わかりやすく「書く」には?
- ◆まとめ



診療録システム「POS」とは

記録はチーム医療の中で重要なコミュニケーションツール 情報を共有し、共通の目的意識を持つために 共通の言語で統一した方法での記載が必要

問題志向システム(POS:problem oriented system)

そのシステムのもと考案された記録様式

= 問題志向型診療録(POMR:problem oriented medical record)



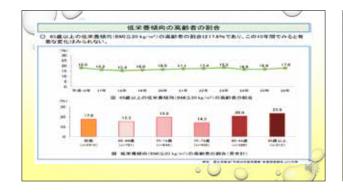
第2回 管理栄養士人材育成研修会

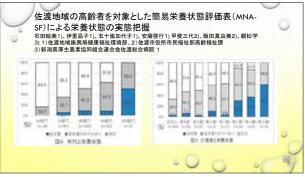








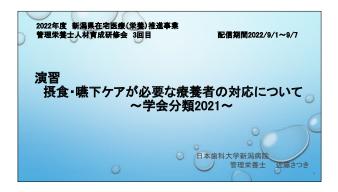








第3回 管理栄養士人材育成研修会





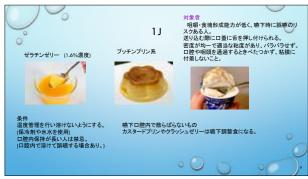




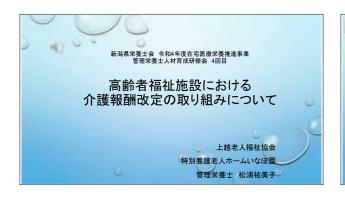








第4回 管理栄養士人材育成研修会①



本日の内容

- 1. 特別養護老人ホームいなほ園について
- 2. 令和3年介護保険改正後見直した業務内容
- 3. 栄養関連加算の取り組みについて(実践)
- 4. 取り組みの効果
- 5. 今後の課題



1. 特別養護老人ホームいなほ園について②

『監事集(令和4年7月末現在)

介護保験関連事業(②・⑥)
①特別養護老人かームいなぼ園 入所定員135名 平均要介護度4.19
②デイサービスセンターいなぼ園 定員35名
③サテライト監診:地域密層型特別養護者人ホームみずほ園 入所定員29名 平均要介護度4.17
④小規模多機能型居宅介護 光寿の家 登録定員29名

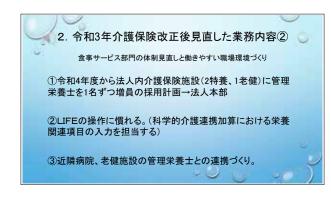
⑤認知症対応型共同生活介護 グループホームなかよし寿の家 入所定員18名

⑥認知症対応型共同生活介護 グループホーム宝寿の家 入所定員9名

⑦軽費老人ホーム ケアハウスみのりの家 入所定員16名

1. 特別養護老人ホームいなほ園について③ **特養いな区園の栄養ケアマネジメント体制の概況**1. 多職種連携 施設サービス計画書に包括するスタイル 施設に3名配置された介護支援専門最が各専門職と連携し計画書を作成している。 (看取り介護計画、栄養ケア計画、経口維持計画、褥瘡ケア計画、口腔ケア支援計画) 2. 厨房体制(令和4年7月1日現在) 食数・1日当たり定員かウントで603食 直営運営 管理栄養士 3名 調理員 常動15名、バート3名

2. 令和3年介護保険改正後見直した業務内容①
管理栄養士体制変更の計画(令和3年度)
令和3年介護保険改正により、栄養ケアマネジメント加算(14単位/ 人/ 日)が基本サービスに包括された。栄養ケアマネジメントは特別養護老人ホームに入所する利用者にはあたりまえに実施される管理栄養士の必須業務となった。実施していない場合は14単位/ 人/ 日の減算(令和5年まで猶予あり)となる。加えて新設された栄養マネジメント強化加算の算定が、法人経営に欠かせない収入適と注目し、法人内介護保険施設すべての栄養関連加算算定による収入シュミレーションを数値化し、算定要件を満たすための体制づくりについて管理者とともに検討に入った。

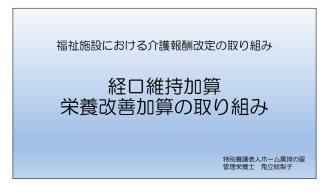


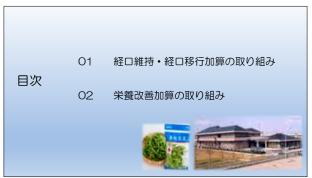
2. 令和3年介護保険改正後見直した業務内容③
(食事サービス部門の体制見直しと働きやすい職場環境づくり)

④給食管理業務の安定化を図る
直営の要である調理スタッフの労働環境改善に着手した。
スタッフの定着化、人材確保強化

*栄養マネジメント業務にプラスになる!!!
調理員の早番出勤時間の見直し、新卒者の育成、メンタルヘルス
育休取得の支援、新調理システム(クックチル)導入の検討。

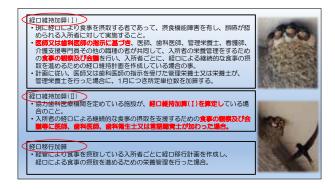
第4回 管理栄養士人材育成研修会②

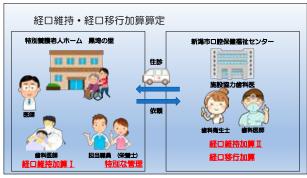




O1 経口維持・経口移行加算の取り組み



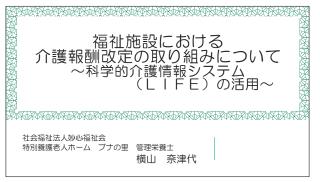








第4回 管理栄養士人材育成研修会③





令和3年度介護報酬改定での変化

- 令和3年度介護報酬改定において栄養ケアマネジメ ントに関する報酬が大きく改定された。
 - ・算定にあたり「LIFEの活用等」が 要件に含まれた

LIFEとは

科学的介護情報システムの略称 (Long-term care Information system For Evidence)

- ✓科学的に妥当性のある指標等を収集・蓄積及び分析
- ✔分析の結果を現場にフィードバック

 厚生労働省老規局老人保健課 科学的介護情報システム (LIFE)による科学的介護の推進について https://www.mhlm.go.jp/content/12301000/000949376.pdf (令和4年8月25日閲覧) 三菱総合研究所、ケアの質の向上に向けた科学的介護情報システム (LIFE)利活用の手引き https://www.mhlw.go.jp/content/12301000/000562103.pdf (令和443月25日閲覧)





算定する加算の決定までの流れ

- 介護報酬改定の情報収集
- 各部署にて洗い出し
 - ・算定中の加算で要項が変更になっているもの・新設の加算
- 変更点や新規算定加算について、全体会議へ提案
- 全体会議にて情報共有
 - ・LIFE利用の条件について説明(情報機器担当)
- ・提案された加算算定を行ったときの収益(事務担当)

算定内容の決定

栄養士がかかわっている加算

- ●栄養マネジメント強化加算(11単位/日)
- 科学的介護推進加算 (70単位/月)
- 身体計測値、低栄養状態のリスクレベル、栄養補給法、食事摂取量 必要栄養量、提供栄養量、血清アルブミン値
- □腔衛生管理加算(Ⅱ) (110単位/月)

食形態 (日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2013)

- 三菱蛇会研究所: ケアの質の向上に向けた科学的介護情報システム (LIFE) 利诺用の手引き https://www.miha.go.jp/content//2301000/000962105.pdf

第5回 管理栄養士人材育成研修会

本スライドに関して、筆頭著者に開示すべき利益相反はありません。

公益社団法人新潟県栄養士会

2022年度

在宅訪問管理栄養士人材育成研修会

「在宅リハと栄養ケアについて、 リハ職の地域活動について」

新潟県理学療法士会

地域包括ケアシステム推進部 大野 智也

● リハビリテーション専門職について

▶ リハビリテーションとその専門職種のご紹介

● 在宅リハと栄養ケアについて

- 在宅分野でのリハ職と管理栄養士との関わり
- 在宅現場で感じる リハ職 と 栄養ケア の課題

● リハ職の地域活動について

⇒ リハ職における保険外活動とその背景

● リハビリテーション専門職について

▶ リハビリテーションとその専門職種のご紹介

●リハビリテーションの語源

・リハビリテーションとは~

医療の専門用語 ≠ ではない

英語:Rehabilitation 語源:ラテン語 Rehabilis Re = 再び Habilis = 適する 「人が再び適する状態になる」という意味

→ 何らかの原因で失った状況を再び取り戻す 社会生活を営む上での名誉を取り戻し、再び人間らしく 生きる権利を回復することが、本来の意味するところ

●リハビリテーションの専門職(リハ3職種)

• 理学療法士 (PT: Physical Therapist)

作業療法士(OT:Occupational Therapist)

• 言語聴覚士 (ST: Speech-language-hearing

Therapist)

- ➤それぞれ職能団体としての県士会組織が存在
- >3職種での新潟県リハビリテーション専門職協議会を組織 >リハ3職種+新潟県の栄養士会+薬剤師会+歯科衛生士会
- 6職種での新潟県地域包括ケア支援専門職協議会を組織

ことばなどの言語の障害を克服、獲得

- 聞こえなどの聴覚障害、コミュニケーションを克服 食事・飲水などの摂食や嚥下障害を克服、獲得 -ションを克服、獲得

整容、更衣、排泄動作などのセルフケア獲得 掃除、洗濯、調理などの家事動作の獲得

買い物、外出、旅行、趣味・余暇活動などの能力獲得

関節の可動域獲得

筋力、持久力の獲得

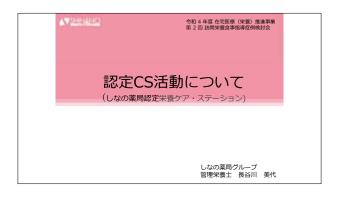
寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行などの動作獲得

●リハ3職種と「移」「食」「住」+「栄養」の関係性 栄養 住

● 在宅リハと栄養ケアについて

○ 在宅分野でのリハ職と管理栄養士との関わり

しなの薬局認定栄養ケア・ステーション













1.事業内容・業績(実際に活動し始めたのは2月から) (1) 栄養相談((7)、(8)、(9)を除く) (2) 特定保健指導 (3) セミナー、研修会への講師派遣 (4) 健康・栄養関連の情報、専門的知見に基づく成果物(献立等)等の提供 (5) スポーツ栄養に関する指導・相談 (6) 料理教室、栄養教室の企画・運営 (7) 診療報酬・介護報酬にかかる栄養食事指導とこれに関連する業務 (8) 上記以外の病院・診療所などの医療機関と連携した栄養食事指導 (9) 訪問栄養食事指導 (10) 食息・米養成分表示に関する指導・相談 (11) 地域包括ケアシステムにかかる事業関連業務



5月の相談者

- *29歳、女性。1年前から急激な体重増加(10kg以上) 2月の検診で肥満、要経過観察と診断 →食事面から減量のアドバイスもらいたい
- *45歳女性。視神経脊髄炎(特定疾患) BMI8.5、薬のためか眠気があり日中起きていられない。 ➡薬の飲み方調整。 朝、夕食はきちんと食べる。昼食は場合によっては飲料でも
- 可とする。
- *部活(高1)女子。で新体操をやっているがよくけがをする (左膝半月板損傷)。食生活で気をつけることは何か。 母親来局。
- →摂取エネルギー不足。少しづつでも良いの食事量増やす。



(4) 健康・栄養関連の情報、専門的知見に 基づく成果物(献立等) 等の提供

○「栄養通信」の作成;毎月薬剤師向けに栄養情報 を発信。

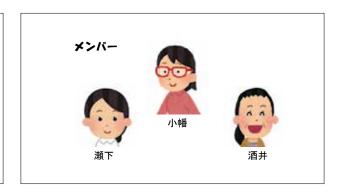
薬剤師が患者様に「食事に関した声かけ」ができ るスキルを身につける事を目的としている。

○保険薬局を拠点とする産学官連携による健康増 進・生活習慣病予防に関するパイロットプログラム関連「なりたい自分にきっとなる」健康プロ ジェクト参加(添付資料4)



認定栄養ケア・ステーション よりそいーと魚沼







事業内容 ・食事の相談 ・健診結果からの提案 ・レシピや献立の考案 ・料理教室 ・スポーツ栄養 ・訪問型の相談(施設関係含む) ・セミナー・研修会への講師 ・診療報酬・介護報酬にかかる業務 ・地域包括システムにかかる業務









活動内容 3

魚沼市介護保険課からの依頼 介護予防・日常生活支援総合事業の 「地域リハビリテーション活動支援事業」 「介護予防普及啓発事業」



「訪問型サービスC(短期集中予防サービス)」



地域のみなさんによりそった 食事支援の輪が広がりますよう 活動をしていきます

ご清聴ありがとうございました



2022年度在宅医療(栄養)推進事業 新潟県補助事業

新潟県における在宅医療(栄養)推進事業 一在宅療養者等のステージにあった QOL の向上を目指して一 2022年度 事業報告書

発行: 2023年3月

公益社団法人 新潟県栄養士会 〒951-8052 新潟市中央区下大川前通 4 ノ町 2230番地 エスカイア大川前プラザ 108号 TEL 025-224-5966 FAX 025-224-0510